

≡文化財報告≡

一里段 A 遺跡の工事中立会に係る記録報告

福島県文化財センター白河館 今野 徹・伊藤典子

法正尻遺跡65号住居跡の縄文土器

福島県文化財センター白河館 松本 茂

文化財データベースについて

ーその1 基本構造と遺跡データベースについてー

福島県文化財センター白河館 藤谷 誠

一里段A遺跡の工事中立会に係る記録報告

今 野 徹・伊 藤 典 子

(1)立会の経緯

福島県教育委員会文化課では、福島県文化財センター白河館の建設に関連して、(財)福島県文化センターに委託し、平成10年9月28日から10月9日にかけて敷地内の分布調査(試掘)実施した。この結果をもとに、一里段A遺跡及び一里段B遺跡の範囲を決定(註1)し、掘削の及ぶ範囲を対象として本発掘調査を実施することとした。本発掘調査は、引き続き(財)福島県文化センターに委託し、平成10年10月12日から11月19日にかけて行い(註2)、翌20日に用地を工事側に引き渡した。

福島県文化財センター白河館の本体工事が進み始めた平成11年11月19日、工事中立会を行っていた県教育委員会が、縄文時代の落とし穴とみられる土坑を発見した。県教育委員会では、必要箇所の工事を一時中断し、この発見を白河市教育委員会及び関係機関に通知した。それとともに、白河市教育委員会、施工監理を受注した(株)佐藤総合計画、本体工事を受注した佐藤工業(株)・(株)兼子組特定建設工事共同企業体、県土木部営繕課と現地で協議を行った。

この結果、発見された土坑を一里段A遺跡に含めること、これに伴ない一里段A遺跡の範囲を変更することが確認された。そして同年12月2・3日に、白河市教育委員会、(財)福島県文化センターの協力を得て、土坑の記録を作成した。本稿は、この際の記録をまとめたものである。

(2)土 坑

今回の立会では6基の土坑が確認された。土坑番号は、一里段A遺跡の本発掘調査で確認したものと、今回の立会で確認したものを通し番号とした。一方、試掘調査で確認したものについては特に番号を付さなかったため、本稿では、トレンチ番号で土坑を表記した。11・19・23・24Tから検出された土坑で、これについては「11T・19T・23T・24Tと本文及び挿図で記載した。遺構の測量基準点は、一里段A遺跡の1次調査報告(註2)に準じた。原点は、国土座標のX=121,600.000、Y=33,400.000である。例えば図中のN72-W16は、この原点より北に72m、西に16mの地点であることを示している。

5号土坑 SK05(図1)

本遺構はN71, W15に位置する。検出時には、すでに土坑南半部は失われていたものの、遺存部の状態から、平面形は楕円形を呈するものと考えている。遺構の長軸方位はN37°Eを示す。規模は、長径が現況で141cm、短径は115cmである。底面の長さは122cm、幅は64cmである。底面の中央は、溝状にさらに一段下がり、その幅は20～27cmである。周壁は60～75°の角度で急峻に立ち上がり、その高さは最も残りの良いところで59cmである。内部の堆積土は4層に分けた。ℓ1・2は土坑の中央に向かって落ち込むように堆積しているため、自然堆積土と判断した。わずかに白色砂粒が混じるが、これは一里段A遺跡の報告(註2)でLⅢに混入が認められた沼沢第1テフラ(以下沼沢パミス)と、肉眼で観察する限り同質のものである。ℓ3・4は口

ーム塊を多く含んでいるため、主に周壁から崩落したものと判断した。なお、底面から小ピットが1基確認された。小ピットの直径は22cm、土坑底面からの深さは20cmである。

6号土坑 SK06 (図1)

本遺構はN51, W18に位置する。遺構の両端は失われていたが、平面形は長楕円形であったと推察される。長軸方位はN86°Eである。検出面で測った長さは137cm、幅は80cmである。底面の幅は10~13cmと上端に比べ極端に狭く、土坑の断面形は葉研形に似ている。周壁の高さは88~91cmである。遺構内の土は遺構の底面に向かって落ち込むように堆積していることから、自然流入土と考えている。ℓ1~5に沼沢パミスとみられる白色粒を含み、ℓ6はローム塊からなる。

7号土坑 SK07 (図1)

本遺構はN37, W25に位置する。LⅣ上面で検出され、長軸方向の両端はすでに失われていた。平面形は楕円形であったと推察される。長軸方位は真北より30°ほど東に傾いている。長径の長さは、最も残りの良いところで180cmである。短径の長さは、上端で195cm、下端で120cmと幅が広い。遺構の掘り込みは、LⅧに達している。底面は傾斜も凹凸もなく非常に平坦である。周壁は底面から垂直に近い角度で立ち上がり、上端付近で開いていく。この開きは周壁の崩落に起因するものと考えている。内部の堆積土は10層に大別したが、凹面状に堆積していることからいずれも自然堆積土と判断した。ℓ1~5には沼沢パミスが多く混じる。ℓ6~9はローム塊が主体で周壁からの崩落土であろう。ℓ10は底面で検出された小ピット内の堆積土である。しまりのないローム塊からなり、崩落土による自然埋没と判断した。小ピットの直径は20cm、土坑底面からの深さは64cmである。

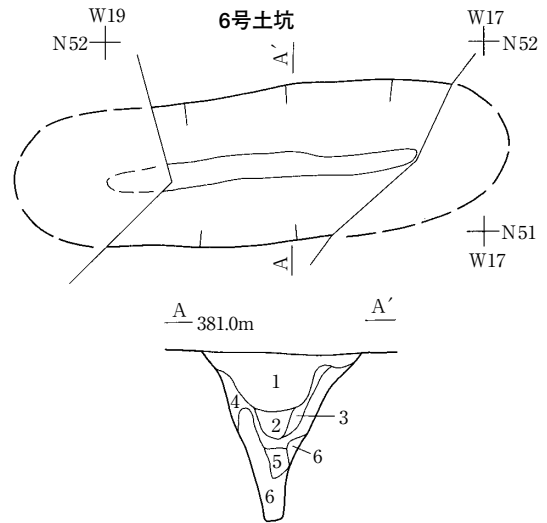
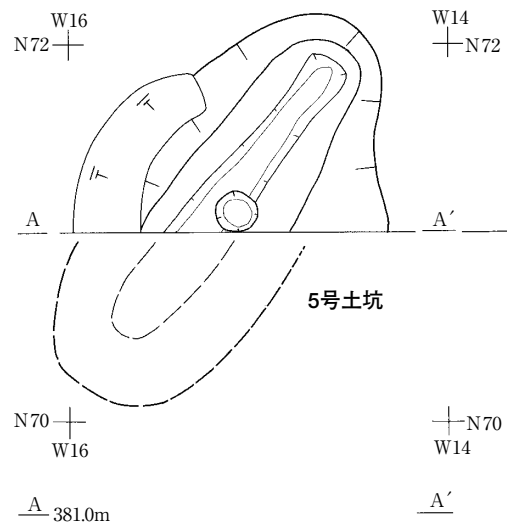
8号土坑 SK08 (図1)

本遺構は工区の壁際で検出され、N24.5, W35に位置する。遺構の片端は確認し調査したが、工区外は未調査のまま保存した。このため平面形は不明だが、長方形を基調とするものと推察される。検出した短辺に直交するように長軸があるなら、長軸はほぼ東西方向を向く。土層断面でみた遺構の幅は、上端で57cm、下端で45cmである。周壁は平坦な底面からほぼ垂直に立ち上がり、LⅢ下位から掘り込まれている。周壁の高さは115cmである。ℓ1~4はローム塊を多く含み、遺構の中央に落ち込むようにあることから、自然堆積土と考えている。ℓ5は柱穴の柱痕にみられる締まりのない土である。土坑の底面に立てられた、逆茂木状のものが腐蝕してできた土と考えている。

ℓ5が堆積している底面の小ピットは直径が7cm前後、底面からの深さが22cmである。柱穴のような掘形がみられないことから、ℓ5が逆茂木の痕跡であるならば、この木は土坑の底面に刺すか、打ち込まれたものと考えている。

9号土坑 SK09 (図2)

本遺構はN27, E19に位置する。遺構の両端は失われた状態で確認した。平面形は長楕円形か長方形であったと推察される。長軸方位は、真北より10°ほど東に傾いている。長径は、最も残りの良いところで236cmである。短径の最大幅は上端で161cm、下端で105cmであった。底面は

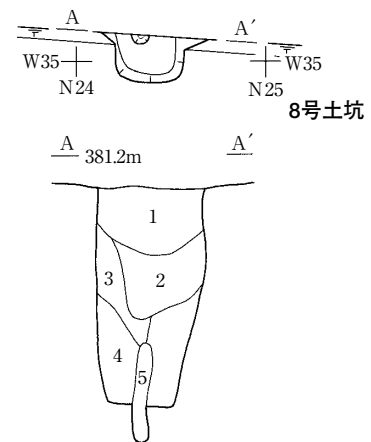
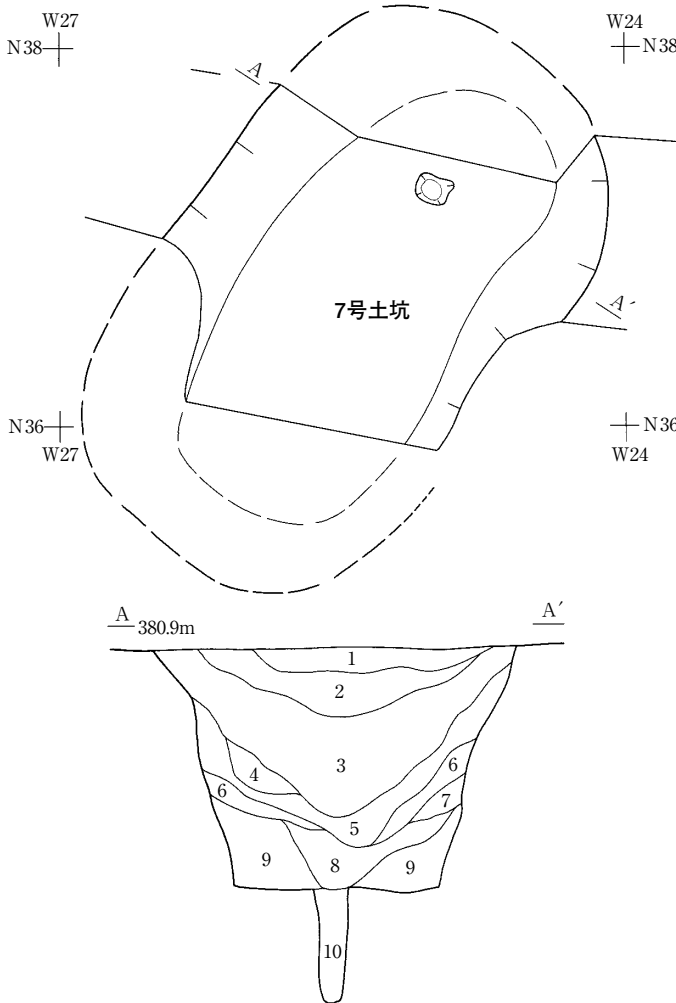


5号土坑堆積土

- 1 黒褐色土 (ローム粒を少し、白色砂粒を微量含む)
- 2 暗褐色土 (暗褐色土塊、ローム塊を多く含む)
- 3 黒褐色土 (暗褐色土塊を少し、ローム粒を微量含む)
- 4 暗褐色土 (ローム塊を多く含む)

6号土坑堆積土

- 1 黒色土 (バミスを少し、黄褐色土粒を微量含む)
- 2 黒褐色土 (バミスを少し含む)
- 3 黒褐色土 (バミスを微量含む)
- 4 暗褐色土 (バミスを微量含む)
- 5 黒褐色土 (バミスを微量含む)
- 6 にぶい黄褐色土 (黒色土塊を少し含む)



7号土坑堆積土

- 1 黒褐色土 (バミスをやや多く含む)
- 2 黒褐色土 (バミスをやや多く含む)
- 3 黒褐色土 (バミスを多く含む)
- 4 黄褐色土 (黒褐色土塊を多く含む)
- 5 黒褐色土 (バミスを少し含む)
- 6 黄褐色土 (にぶい黄褐色土塊をやや多く含む)
- 7 黄褐色土 (にぶい黄褐色土塊をやや多く含む)
- 8 黒褐色土 (黄褐色土塊を多く含む)
- 9 黄褐色土 (黒褐色土をやや多く含む)
- 10 黄褐色土 (黄褐色土塊)

8号土坑堆積土

- 1 黒色土 (黄褐色土塊を含む)
- 2 黒色土 (黄褐色土を斑状に含む)
- 3 黒色土 (黄褐色土塊を含む)
- 4 黒褐色土 (黄褐色土塊を多く含む)
- 5 黒褐色土 (黄褐色土塊を斑状に多く含む)

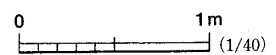


図1 5～8号土坑

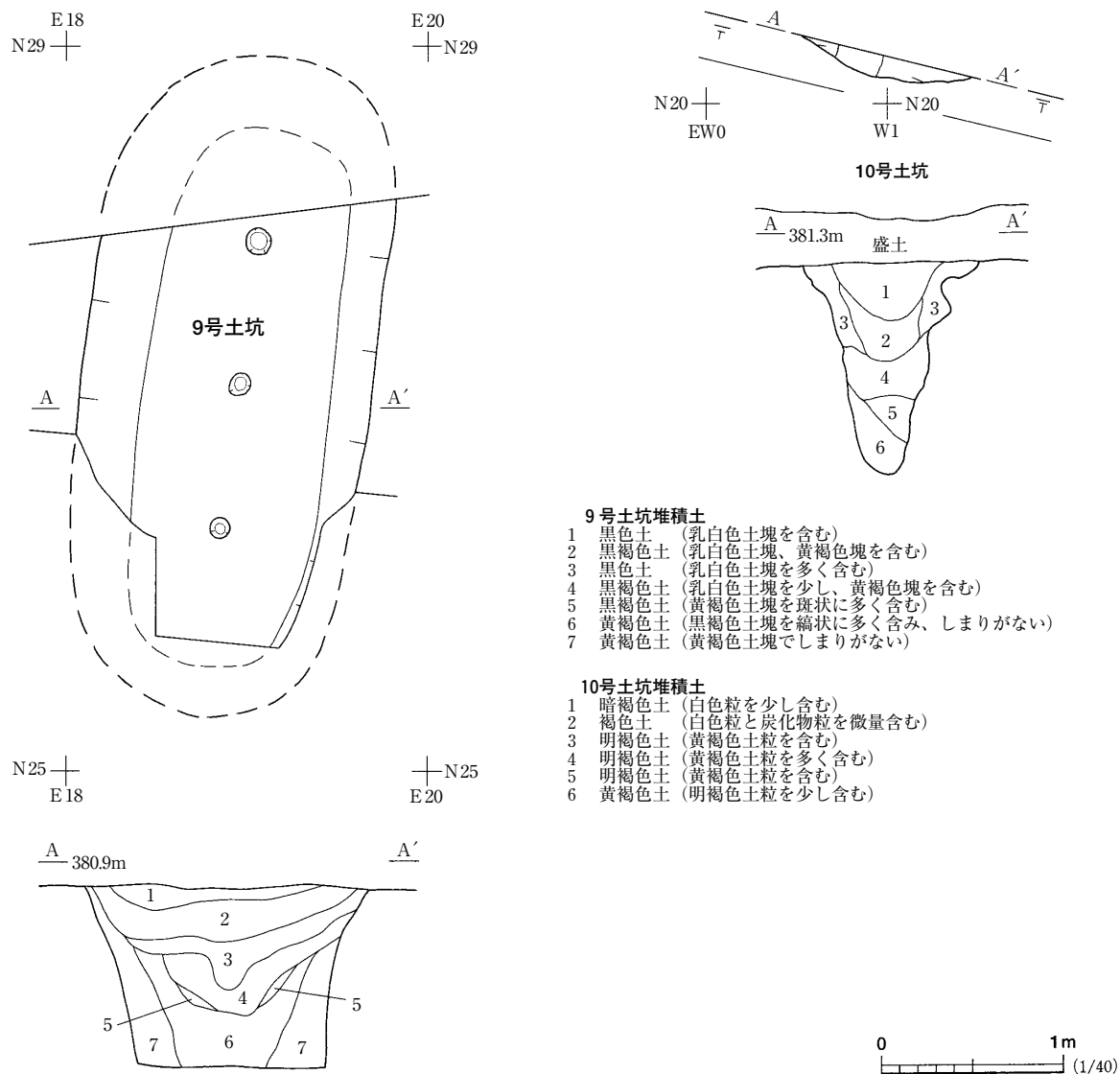


図2 9・10号土坑

傾斜も凹凸もなく平滑である。周壁は底面から垂直に近い角度で立ち上がり、上端に近づくにつれて開く。この開きは、周壁の崩落によるものであろう。

土坑内の堆積土は7層に大別したが、遺構の中央に向かって凹面状に堆積していることから、自然堆積土と判断した。ℓ 1～3は沼沢パミスとみられる乳白色土の塊を多く含む。ℓ 6・7はローム塊が主体で締まりがないことから、周壁からの崩落土であろう。土坑の底面で3基の小ピットを確認した。その直径は12～15cm、土坑底面からの深さは43～46cmと径・深さともに揃っている。この小ピットは、逆茂木を立てた痕跡と考えている。

10号土坑 SK10 (図2)

本遺構は工区の壁際で検出され、N20, W1に位置する。土層断面の調査に止め、工区外は調査されなかったため、平面形は不明である。土層断面の幅は98cm、底面までの深さは115cmである。内部の堆積土は遺構の底面に向かって落ち込むようにあることから、自然堆積土及び周壁の崩落土と考えている。ℓ 1・2に、沼沢パミスとみられる白色粒を少し含んでいる。ℓ 3～6は、壁の崩落土とみられるローム塊が主体である。

ま と め (図3)

今回報告した6基の土坑は、平面形・断面形・規模が異なる落とし穴だと考えている。本調査報告、試掘調査報告で落とし穴とした土坑を含め、その配置を図3に示した。個々の落とし穴の形状や、底面にみられる小穴の有無をみていくと、これらは、以下のように分類できる。

I 群 底面に幅があるもの

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 類 底面が幅広で、底面に小穴があるもの | 1・7・9号土坑、19・44T |
| 2 類 底面が幅広で、小穴がないもの | 11・23T |
| 3 類 底面が長楕円形のもの | 3・5・8号土坑 |

II 群 底面が極端に狭く、断面形が葉研形のもの 4・6号土坑

並んで配置されているようにみえた5～8号土坑及び11Tと、4・9・10号土坑にこの分類を当てはめると、各々にI群、II群双方が混在している。さらに5～8号土坑及び11TにI群の3細分を当てはめると、1～3類に分かれる。このことから、並んでみえる落とし穴が、様々な形状に分かれることがわかる。落とし穴の形状の違いが、その年代や目的の差異を示すもの

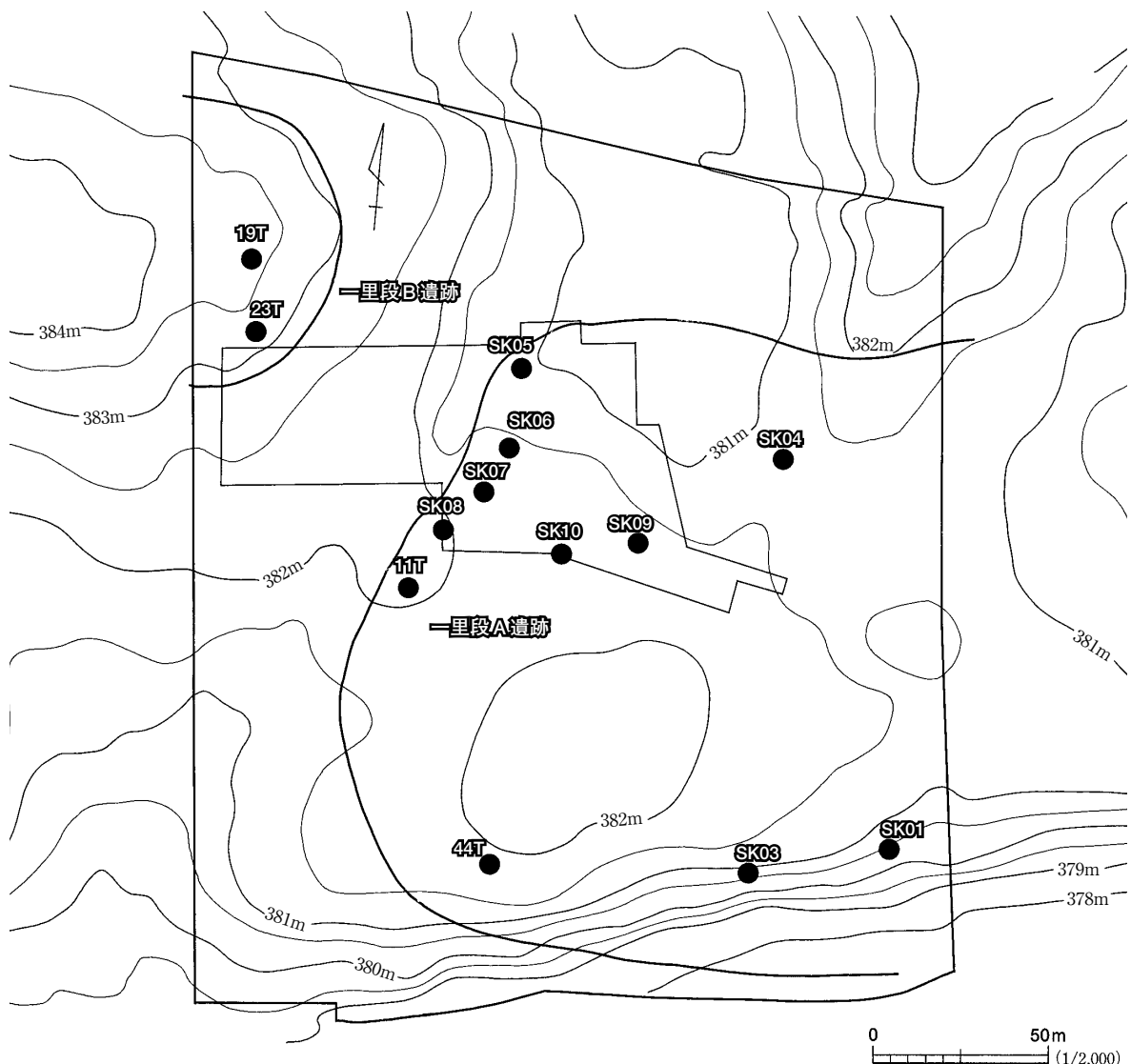


図3 落とし穴配置図

であるならば、これらの落とし穴は、いくつかの時期に分かれて掘られたものと言うことができよう。

今回報告した6基の土坑から遺物は出土していない。その年代は特定できないが、遺構内に堆積した沼沢パミスの在り方から、ある程度の年代を推定したい。本発掘調査で調査した1号土坑(註2)は、沼沢パミスを含むLⅢから掘り込まれていることを確認している。このことから、縄文時代前期末以降のものとした。同じI群1類とした7・9号土坑は、1号土坑と近い時期のものと考えている。8号土坑は、LⅢの下位から掘り込まれ、沼沢パミスはほとんど含まれていない。このため沼沢パミス降下以前ののものであろう。同タイプとした5号土坑や、内部の堆積土に沼沢パミスをほとんど含まない10号土坑は、8号土坑と近い時期のものと考えたい。4・6号土坑は、断面形がよく似ていること、沼沢パミスを土坑内堆積土中に多く含むことから、縄文時代前期末には埋まりきっていなかったと判断した。

(3)表面採集遺物 (図4～6)

福島県文化財センター白河館の敷地内からは、工事中立会時に、縄文土器153片、土師器13片、石器類187点が採集されている。以下、図示した遺物について報告する。

図4-1～23は、本発掘調査報告でI群とした縄文時代早期の無文土器である。胎土に白色砂を多く含み、砂粒の移動が顕著にみられるほど、外面にケズリを施したものが大半である。ケズリは、横方向か、下から斜め上に向かって施されたものが多い。これは恐らく、土器の内側に片手を入れて、逆さに持ちながら調整したためであろう。4・22のみはケズリが施されず、比較的薄手で、胎土も似ているため同一個体の可能性がある。口縁部の断面形は、角頭状の1～3、口端部が厚くなる4・5、外削ぎ状の6・7などのバリエーションがみられる。8～18は胴部上位から中位にかけての破片である。器壁の厚さは7～12mmである。19～23は胴部下位の破片と考えている。21～23は下端ほど厚くなることから、尖底か丸底になるものと推察される。図4-24は胎土に金雲母を含む口縁部片である。押引文が施され、やや薄手だが、縄文時代中期のものと考えている。同図25・26は田戸下層式であろう。器面を削りながら施した太い沈線がみられる。27は胎土に繊維混和痕がみられ、羽状縄文が施されている。このため、縄文時代前期前葉のものとして判断した。28は器壁が5～6mmと比較的薄く、綾縄文ともみられる縄文が施されている。過去の調査では出土していないが、縄文時代晩期のものと考えたい。

白河館の敷地内で表面採集された石器の内訳は、石鏃・台形様石器・石核・剥片・碎片・凹み石・線刻礫などで、大部分は剥片・碎片である。石質は泥岩が168点と大部分を占め、このほかには頁岩・流紋岩などがある。ここでは、残りが良く、形態を推定することができる石器12点を図示した。

図4-29は台形様石器の可能性があり、軟質な石材であるため、稜線が著しく摩滅しており、二次加工の剥離痕を観察するのが困難であった。また、リング・フィッシャーも観察できないため、実測図では剥離面を白いままで残した。30は縦長剥片である。打面は平坦で、剥片幅に比して打面幅が大きい。図5-1～5は剥片である。打面は単一もしくは複数の剥離面からなり、いずれも打面幅が大きい。1～3は縦長の剥片で、3は背面の自然面上に赤黒色の付着物

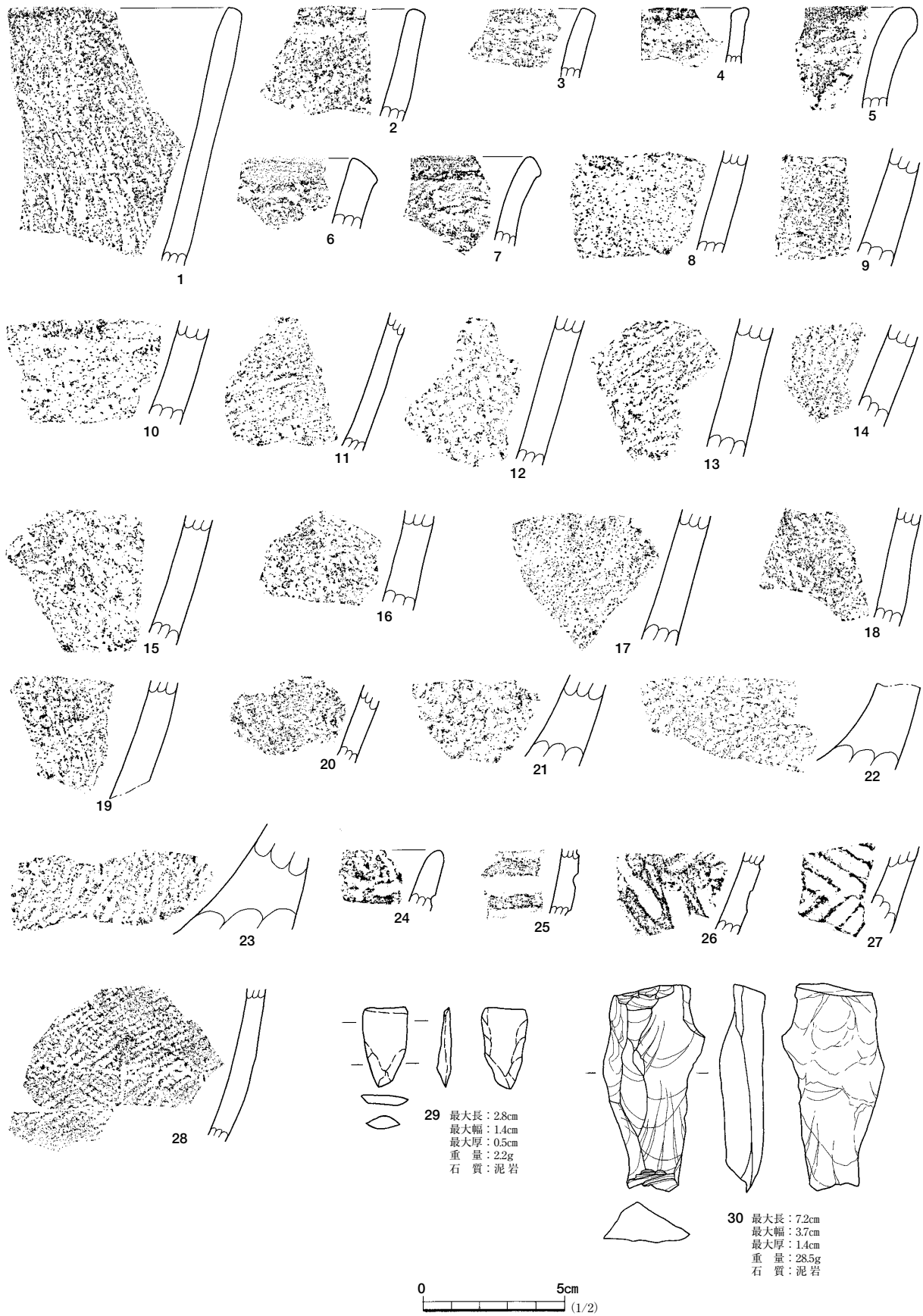


図4 表面採集遺物（1）

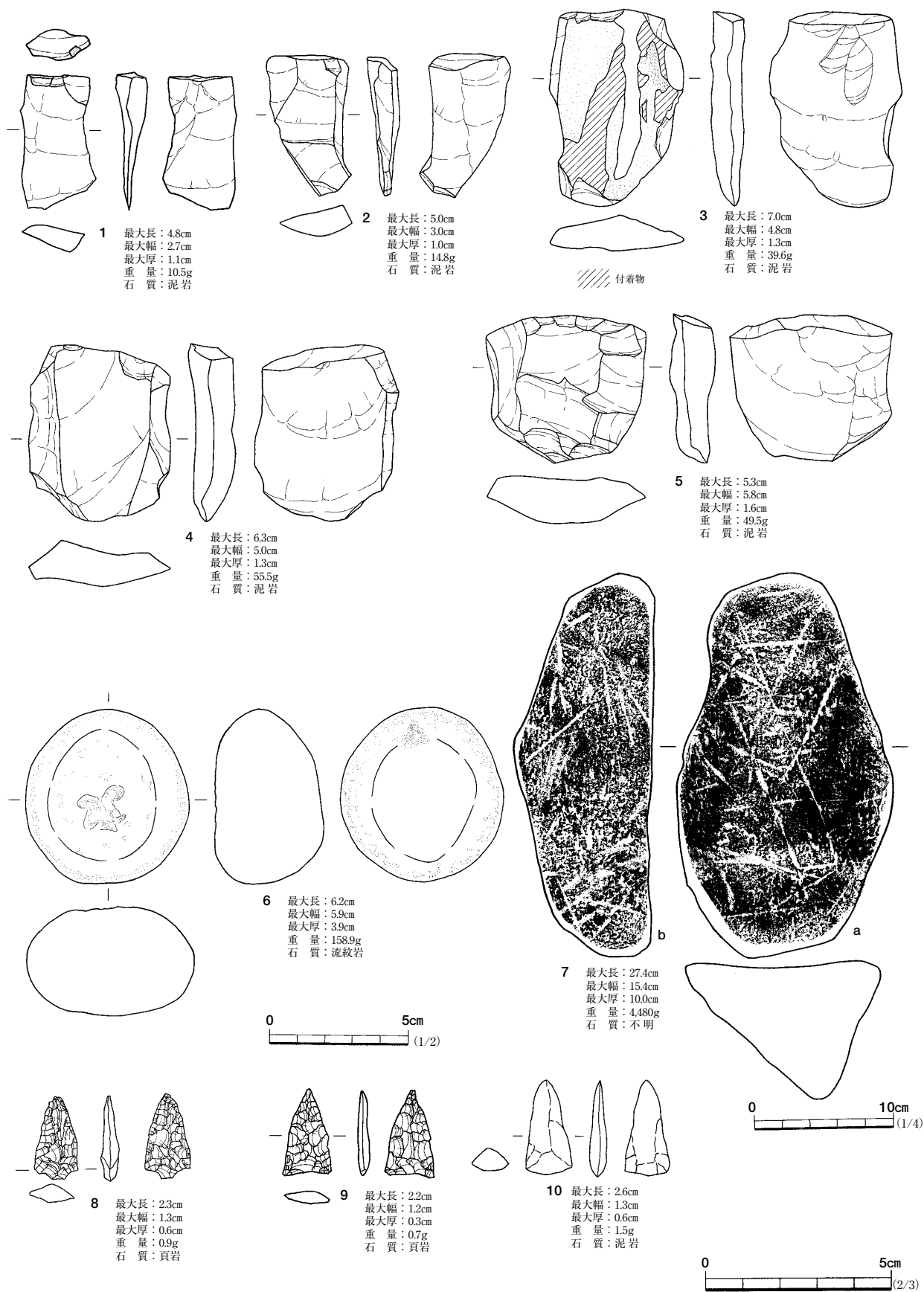


図5 表面採集遺物 (2)

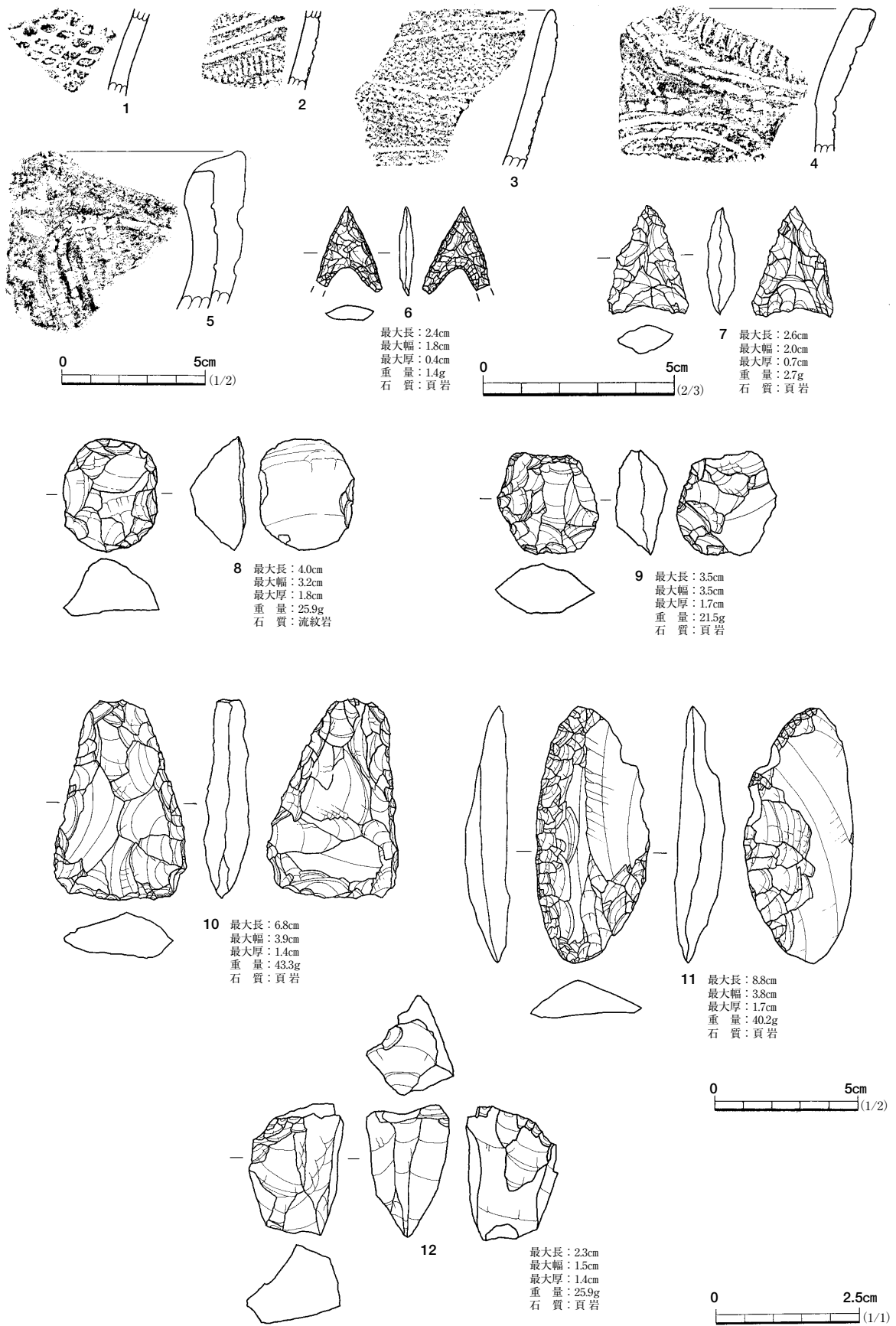


図6 表面採集遺物 (3)

が認められる。6は流紋岩製の小型の凹み石である。7は断面が三角形の垂円礫に線刻を施している。線刻は3面に見られるが、最も平坦で大きな面（a面）に数多く施されている。線の断面はV字状で、上端の幅は1～2mm、長さは最も長いもので20cmである。3方向の線の組み合わせにより、三角形や菱形に見える部分もある。表面は後世の何らかの作業で、広く削られている。金属顕微鏡で線刻部分を観察したが、金属との接触による特徴的な光沢は見えなかった。8・9は石鏃である。8は破損しているものの茎をもち、9は無茎である。10は泥岩製で、摩滅が著しいため、稜線やリング等の観察は困難であった。かろうじて見える剥離面から、基部と縁辺に二次加工が施されていたのがわかる。ここでは形態から石鏃に分類しておく。

図6は、白河館敷地外の客土中から採集された遺物である。敷地外からは、縄文土器230片、土師器4片、石器類93点が表面採集されている。そのうち12点を図示した。図6-1は、楕円形の押型文が施された胴部片である。2は、角棒状の工具先端で連続刺突文を、3は沈線による区画内に放射肋が顕著な貝殻による腹縁文を施している。2・3とも田戸下層式に属するとみられる。4は胎土に金雲母が入り、押引文が施されている。口縁部上端に縦長の刻みが入り、縄文時代中期前葉のものと考えている。5は隆帯が縦位に付く波状口縁部片で、押引文がみられる。胎土に金雲母を含み、阿玉台式と考えられる。

白河館の敷地外から採集された石器の内訳は、石鏃・スクレイパー・石筥・両面加工石器・不定形石器・石核・剥片・碎片などである。このうち、器種や形態のわかるもの7点について図示した。石質は一里段A遺跡出土のものとは全く異なっており、頁岩が卓越している。一里段A遺跡の主要石材であった泥岩の割合は16点と少ない。

図6-6・7は石鏃である。6は凹基無茎式で、基部が欠損している。7は平基無茎式である。左右対称でなく、厚さに偏りがあることから、未成品と考えている。8は流紋岩製で、背面側には急斜度の二次加工が全周に施され、スクレイパー状の刃部を形成している。9は小型の石核である。厚手の剥片を素材とし、縁辺の角度からスクレイパーに転用している可能性がある。10は撥形の石筥で、金属との接触によると思われる鉄分の付着が表面に認められる。11は横長の剥片を素材とする両面加工石器である。周縁を加工し、尖頭器状に形態を整えているが、二次加工は全面には及んでいない。背面側に鉄分の付着が認められる。12は細石刃核である。厚手の剥片を素材とし、作業面を正面とした場合、右側面に主要剥離面が残っている。打面は複数の剥離面からなり、細石刃を剥離した痕跡は3条認められる。剥離した細石刃の長さは2.0～2.2cmである。今回採集された細石刃核は円錐形を呈し、円柱形・稜柱形と呼ばれる細石刃核に含まれる。なお、一里段A遺跡の発掘調査（註2）では「削片系」と呼ばれる細石刃核が1点出土している。

註

(1) 「福島県文化財センター白河館（仮称）遺跡分布調査」『福島県内遺跡分布調査報告』5

(2) 「一里段A遺跡（1次調査）」『福島県文化財センター白河館（仮称）遺跡調査報告』

(3) 表面採集遺物の一部は、泉崎村の本柳幸夫氏が所有している。

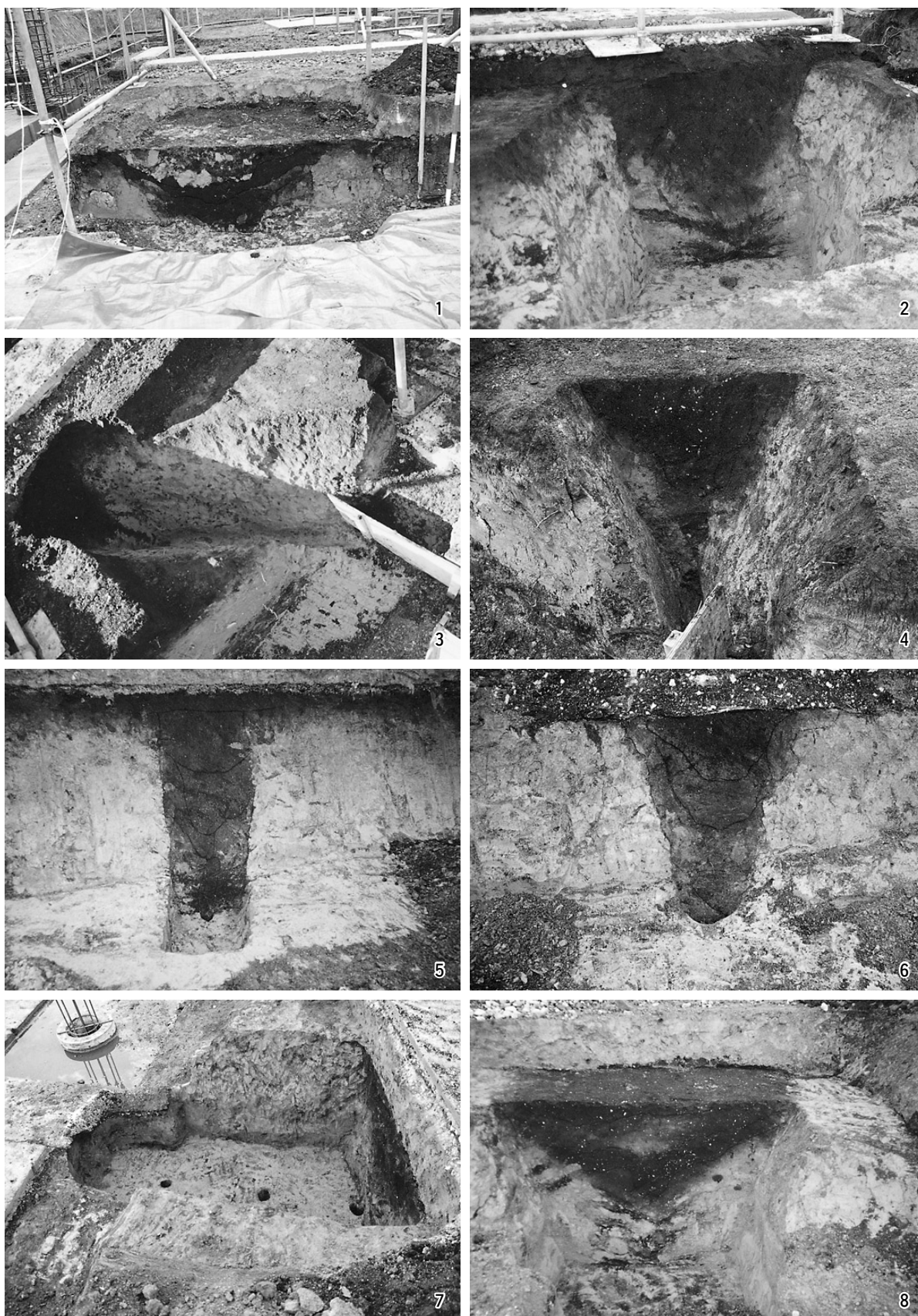


写真1 土坑

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 S K 05断面 (南から) | 5 S K 08断面 (東から) |
| 2 S K 07全景 (南から) | 6 S K 10断面 (北から) |
| 3 S K 06全景 (東から) | 7 S K 09全景 (東から) |
| 4 S K 06断面 (東から) | 8 S K 09断面 (南から) |

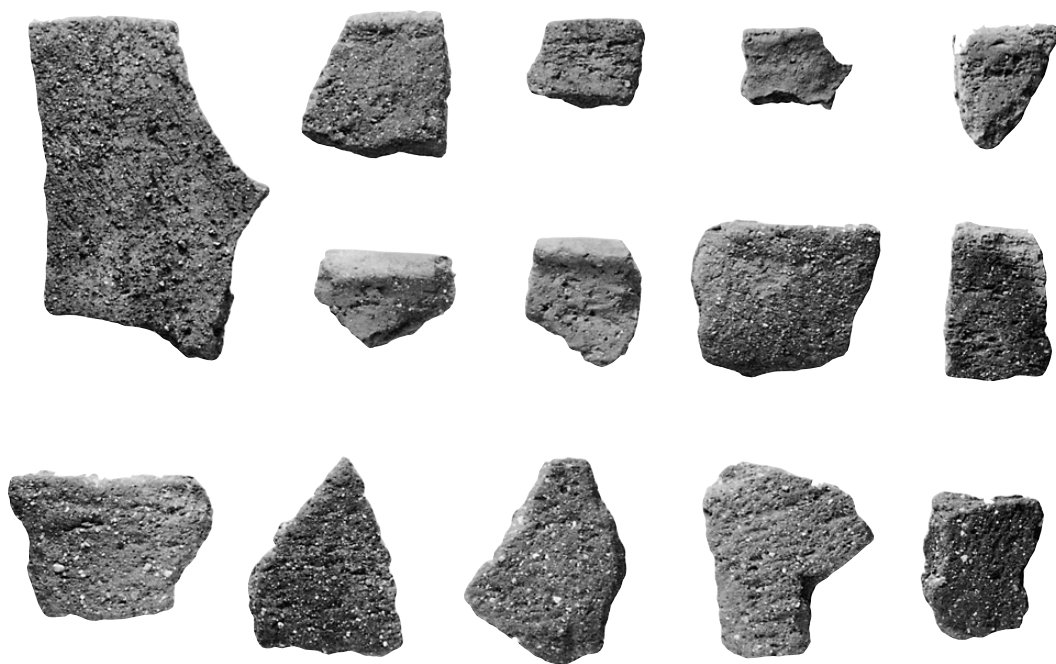


写真2 表面採集縄文土器

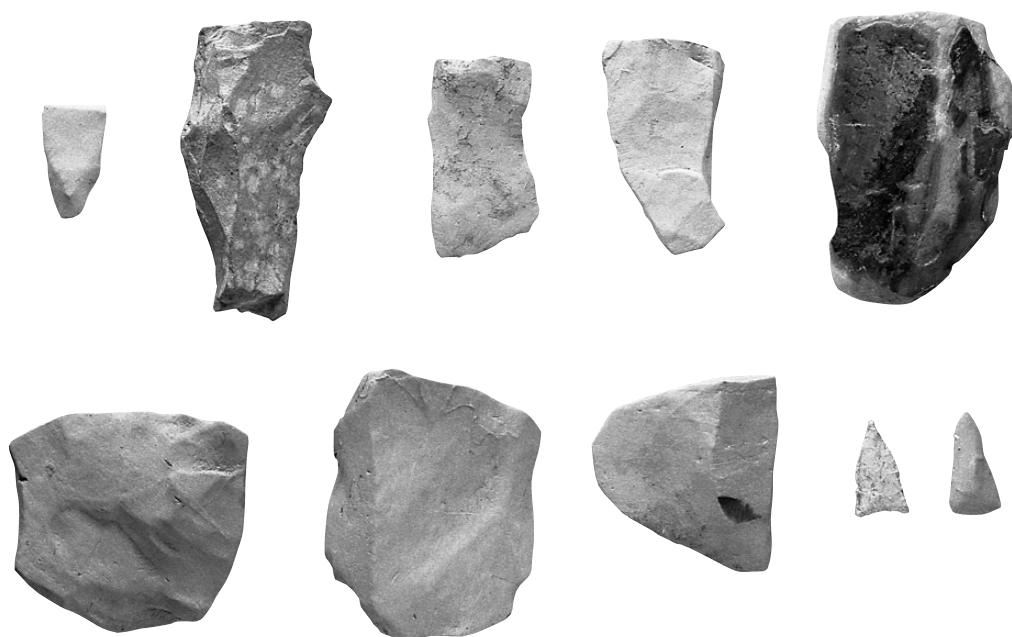


写真3 表面採集石器

法正尻遺跡65号住居跡出土の縄文土器

松 本 茂

法正尻遺跡の調査とその成果については、既に平成3年3月に『東北横断自動車道遺跡調査報告11』として、福島県教育委員会から刊行されている。しかし、ここに取り扱う65号住居跡出土縄文土器1点は、整理作業時のミスにより、報告書に掲載されなかった。この土器については、現在完形に近い状態にまで復元され、資料的にも法正尻遺跡では数が少ない時期のものであることから、ここに資料紹介をさせていただく。

まず、この土器が出土した65号住居跡について概観する。65号住居跡は、調査区西側の堅穴住居密集区東端に位置する。この密集区に作られる堅穴住居は、大木8b式期～大木10式期のもので、これらの住居が円形状に配置されている。65号住居跡は336～368・387・388・436号の7基の土坑と重複し、436号土坑だけが本住居跡より新しい時期の遺構である。

本住居跡の平面形は長方形で、長辺はほぼ東西を示し、等高線と平行する。規模は長辺5.6m、短辺4.0m、検出面からの深さは35cmほどである。柱穴は長辺側に各2個、短辺側に各1個、それぞれ対応するように作られている。北壁際の2個の柱穴の直径は小さいものの、これらを含めて6本柱の堅穴住居であったと報告されている。炉は住居中央に作られた楕円形状の石囲炉で、規模は70×130cmである。炉の縁を区画する石は手のひら大ほどのもので、炉の内側は焼土化が顕著である。

出土遺物については、土器片500点と石器9点が出土したことが報告され、この中から16点の土器片と5点の石器が図に示されている。その一部を図1に再録した。1は胴部が球体状をなし、口縁部下端が鐙状に張り出す土器で、対面する位置に渦巻状と橋状の突起が付けられている。口縁部は無文で、胴部には沈線による渦巻文が横方向に連続して描かれている。国立歴史民俗博物館永島正春氏（同報告書付編3）により、器面にはベンガラを用いた朱漆が塗られていることが確認されている。2はキャリパー状の深鉢で、器面全面に断面形が若干三角形状をなす隆沈線により、連結する渦巻文が描かれている。3はキャリパー状の深鉢の口縁部に付く中空の把手、4も同様の器形の土器であるが、文様は断面三角形状の隆線と緩やかな凹線で渦巻文と楕円形状の区画文が描かれている。5は断面がカマボコ状をなす凸帯と緩やかな凹線で、渦巻文と楕円形状の区画文を描いている。これらの土器については、3が大木8b式土器、他は大木9式土器に比定されている。この他に図示されているものの中には、3点の大木8b式土器と4点の大木9式土器、それに磨消縄文手法で文様を描く、より新しい段階の大木9式土器が1点掲載されている。本住居跡の所属時期については、出土土器の年代観から、大木9式の段階とされているが、その中でも隆線や隆帯、沈線や凹線で渦巻文を主とした楕円形の区画文を描く、より古い段階のものと考えられるであろう。

図2には、今回資料紹介する土器を示す。現状で、この土器は底部と胴部の約1/2程を欠くものの、口縁部はほぼ全周する。この土器の出土状態については、特に記録がないことから、

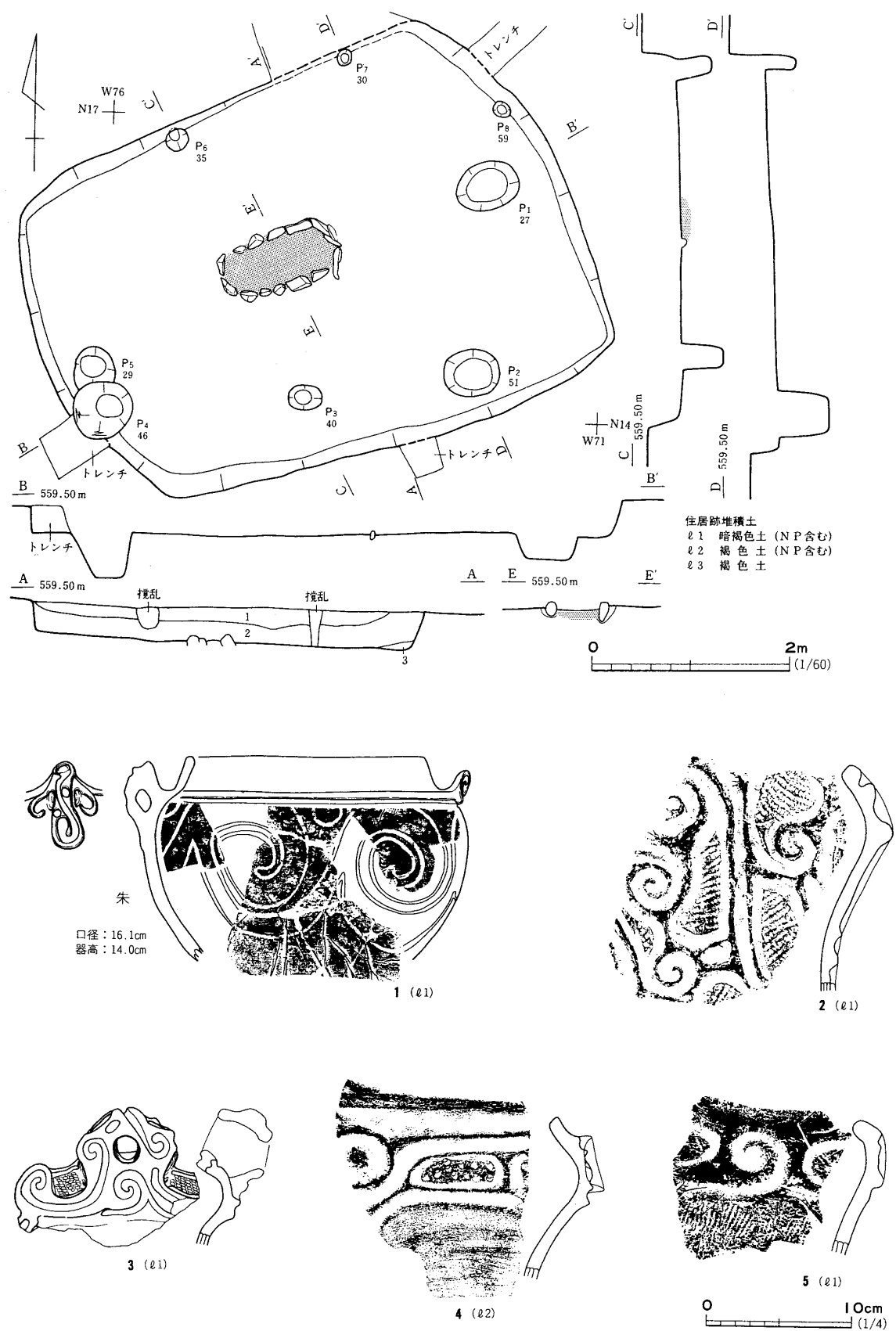


図1 法正尻遺跡65号住居跡と出土土器（一部）

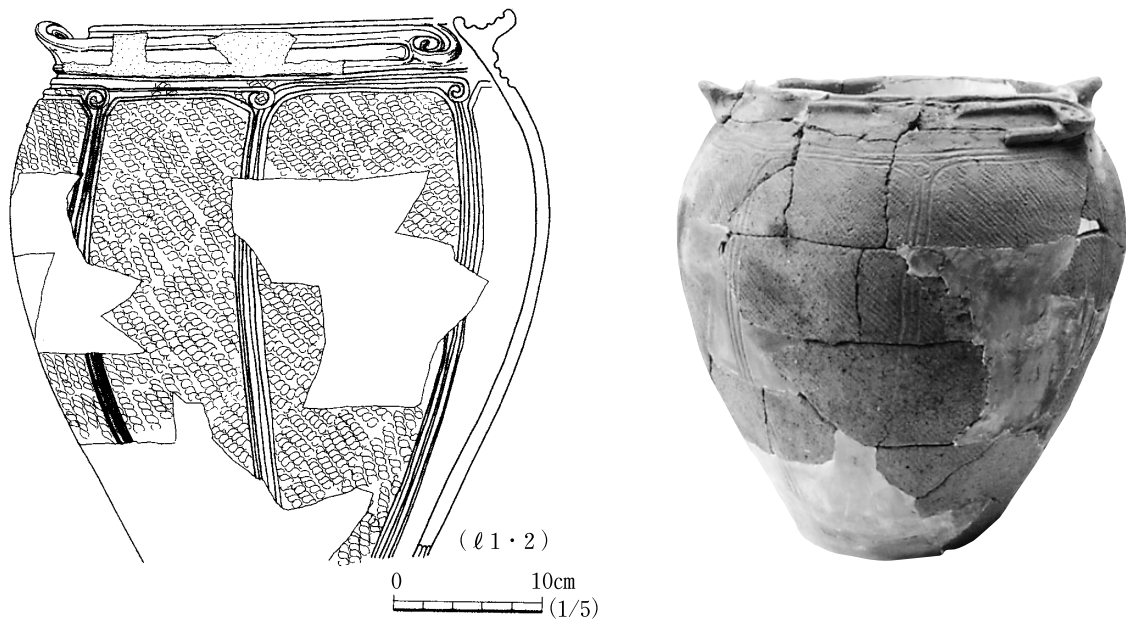


図2 65号住居跡出土土器 追加資料

調査時点ではそのまともを確認できなかったことが考えられる。

図2の土器は胴部上半に最大形を持ち、樽に近い形状の深鉢である。器形的には、口縁部と胴部の区分が不分明である。大きさは、口径が37cm、高さは現況で55cmで、法正尻遺跡出土の縄文土器の中では、大型の部類に含まれる。

文様は、口縁部に隆帯による横楕円形の区画文が8単位配され、その端部には隆帯と凹線による渦巻状の突起が付く。現状で確認できる突起の数は4個で、その状態から、2種類の突起があることが確認された。1つは断面図に示す斜め上向きに付けられた突起で、上面に渦巻文が施されているため、正面からは渦巻文を見ることができない。他はその間に付く斜め下向きの突起で、正面から渦巻文が描かれていることが分かる。胴部の文様は極めて簡素で、3本1組の沈線で、口縁部と同様に短冊状に8区画している。口縁部の渦巻状突起の直下には、沈線で小さな渦巻文が描かれている。胴部の地文はL Rの縄文である。

この土器については、口縁部と胴部に文様帯が区画されること、口縁部には隆沈線で渦巻の突起が付く楕円形区画文が施されていること、口縁部と胴部文様帯が一体化したり、文様要素に磨消縄文手法が認められないことなどから、大木8b式土器に含まれるものと考えている。法正尻遺跡の中では、77号住居跡出土土器に近いものと考えられ、大木8b式土器を新古に2分すれば、より新しい段階のものに比定できる。本住居跡の所属時期については、報文に示された大木9式期とする年代観を変更する必要はないと考えているが、その中でも磨消縄文手法で文様を描かない、より古い段階の所産と考えている。

参考文献

福島県教育委員会・(財)福島県文化センター 1991 『東北横断自動車道遺跡調査報告11』法正尻遺跡

文化財データベースについて

－ その1 基本構造と遺跡データベースについて －

藤 谷 誠

はじめに

近年、開発による発掘調査件数が累増し、それによって得られた遺物や写真、調査報告書などの調査情報も増加の一途をたどっている。このような調査によって得られた情報は、現地説明会や展示会、あるいは、刊行された発掘調査報告書等で一般に公表されている。しかし、現地説明会や展示会は時間的・地理的な制約が伴い、報告書はその発行部数が限られているなど、一般県民に対する情報提供は十分な状況とは言えない。文化財調査はその性格上、国民のコンセンサスの元に行われるものであり、こうした状況には改善をはかる必要があると思われる。このような中、文化財情報の提供の機能を担った福島県文化財センター白河館が設立され、平成13年7月14日からは、インターネットのホームページによる文化財情報の提供も開始された。

本稿では、文化財情報提供の基幹を担う文化財データベースがどのような形で構築されているかを複数回にわたって報告したい。文化財のデータベース化に興味を持たれている機関・研究者に御参考いただき、至らない点など御指導いただければ幸いである。

1 データベースの基本構造

1) 構築の目的

文化財データベースを構築する目的は、文化財情報を広く収集し県民に広く発信すること及び収蔵文化財資料の一元的な円滑管理である。これについては、平成8年度に諮問された「福島県文化財センター基本構想（案）」に則っており、平成13年3月に公布された「福島県文化財センター白河館条例」の中で白河館の機能として、文化財情報の収集と発信、収蔵文化財の管理として規定されている。

2) 対象とした資料

データベースを構築するにあたり、まず第1に考慮する必要があるのが、データベース化する対象である。対象によってシステムの規模や要件がある程度規定される。本データベースでは、発掘調査によって得られた文化財情報の中から、当面、遺跡・遺物・写真・文献の4つの資料を対象としている。この他にも図面類・帳票類等の資料があるが、選定にあたっては、上記目的に合致し、長期的な整理の目処が立つかどうかを考慮している。

遺跡資料については、平成6年県教委発行の「福島県遺跡地図」を元にした位置等の基本データと県内発行の発掘調査報告書を元にした発掘調査データを対象としている。対象件数は遺跡地図の遺跡数が約13,500、県内の発掘・試掘調査報告書が1,100冊となっている。

遺物資料については、福島県教育委員会が実施した発掘調査によって得られ、報告書の中で

公表されているものを対象としている。その点数は約200,000点である。

写真資料については、福島県教育委員会が実施した発掘調査によって得られ、報告書の中で公表された遺跡写真の中で35mmカラーリバーサルフィルム化されているものを対象とした。対象資料件数は、約38,000点である。

文献資料については、当財団遺跡調査部及び白河館に所収されている文化財関係の文献を対象としている。対象資料件数は約26,000冊となっている。

3) 基本要件

(1) ハード的な要件

2を対象としたデータベースを構築するにあたり、まずその総件数を円滑に扱えることが一義的な要件である。廉価な市販のデータベースソフトで20万件を超えるデータを円滑に扱うことは現実的でないと思われる。また、情報提供はインターネットのホームページの利用が前提なので、これに対応したネットワークシステムが構成されることも基本要件となる。

(2) 対象操作の要件

4つの対象資料について、それぞれが完全に独立することなく、それぞれのデータから他のデータを参照可能なシステムであること。

(3) システム的な要件

構築の目的に沿って運用するためには、以下の5つのシステム的な要件が考えられた。

① データ入力

まず、システム構築にあたっては、データ入力が最初であり、これが円滑に行えないことにはシステム自体立ち上がらない。テキストデータの入力は表計算ソフトを用いて実施しており、入力したデータがダイレクトにデータベースに取り込まれる必要がある。

② データ検索

目的の柱に県民に対する文化財情報の提供があり、それを実現するために必要な要件となっている。データベースに取り込まれたデータの提供については、特定のパソコンを通してではなく、誰でも利用可能なインターネットを通して簡易に検索出来ることが必要である。また、既存の公開型データベースにありがちな、画面上のみでの検索結果の提供にどどまることなく、新しい形でのデータ提供も求められる要件とした。具体的には検索結果を表計算ソフトで開ける形式でダウンロードできることと、画像についてインクジェットプリンタでの印刷に耐える品質でダウンロードできることである。

③ 収蔵資料の管理

文化財情報の提供と並ぶ柱として収蔵資料の効率的な管理が白河館の機能としてあり、収蔵されている遺物資料や写真資料について、収蔵位置情報や貸出・閲覧に対応できることが要件となる。

④ データの管理

データベースシステムを円滑に運用するためには、その利用状況を把握する必要がある。そ

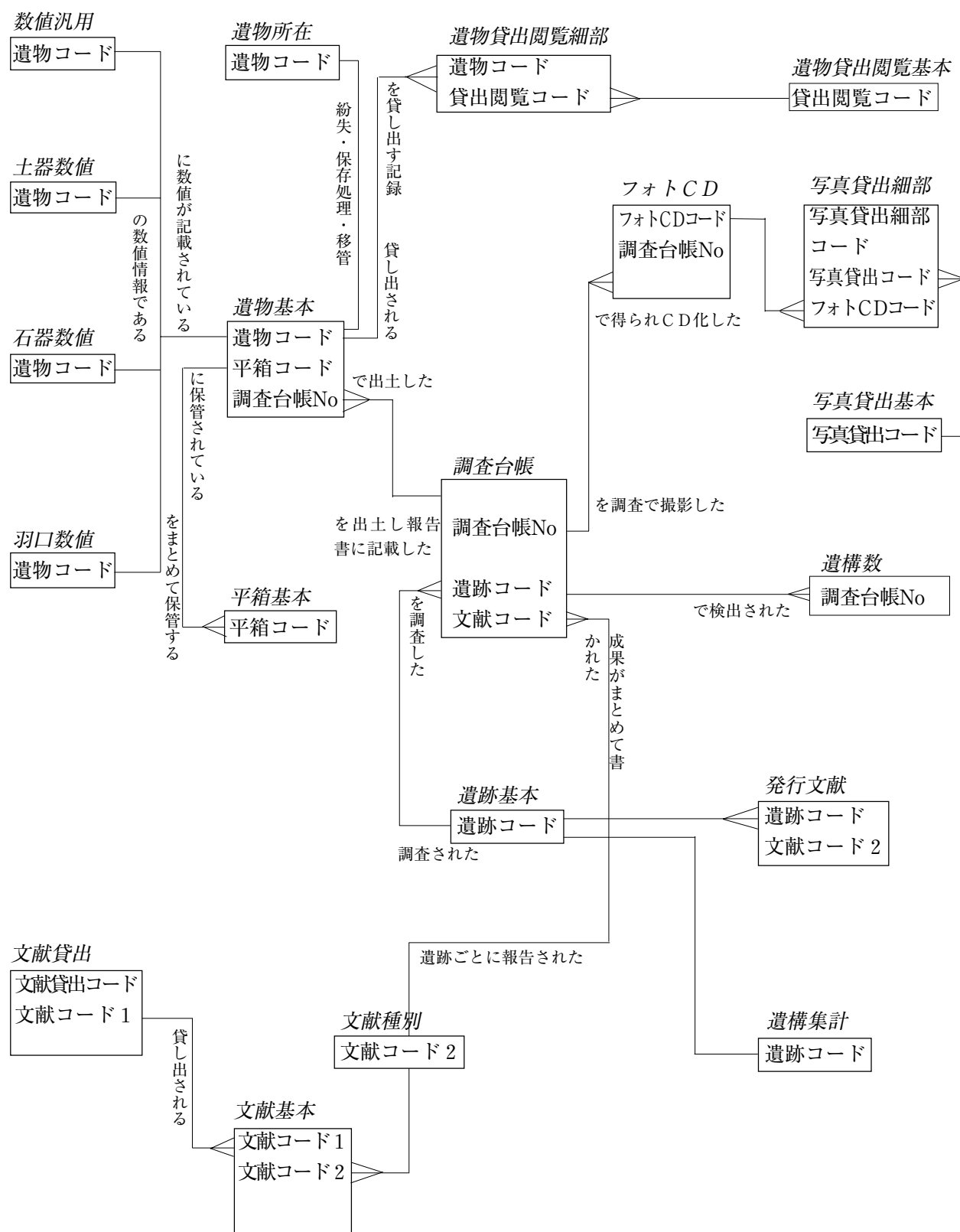


図1 文化財データベースER図

のため、月別の入力・更新・検索が集計可能であり、それがファイルとして出力可能であることが要件となる。

⑤ データのメンテナンス

当初、データのメンテナンスは入力システムのみで対応する運用を考えていたが、運用の過程において、より細密なメンテナンスにも対応可能なシステムが必要となった。データの修正は件数の少ないものを除き、表計算ソフト上で行った方が効率的である。そのため、発行されたSQL文が直接CSVファイルに出力可能であることが要件となる。

4) テーブル（表）の設計

(1) ER設計とキー設計

上記の要件を念頭に置いて基本的なER設計を行ったのが、第1図である。表の完全な正規化は行わず、検索を念頭に置いた設計となっている。

データベース化する各資料のプライマリーな管理コードとして、遺跡については、遺跡コードと調査台帳コード、遺物については遺物コード、写真についてはフォトCDコード、文献については文献コード1、文献コード2をあてた。

これらを関係する別表に参照キーとして埋め込むことによってリレーションシップが保たれる構造となっている。

遺跡を管理する表には、遺跡表と調査台帳表を基本表とした。遺跡表は、県内の遺跡の位置情報等の基本情報が入力されるもので、調査台帳表は、発掘調査報告書の調査成果が入力されるものである。この他に付随する表には、遺構数テーブルと発行文献の表がある。

遺物を管理する表は、出土遺跡・遺構・層位などに基本情報からなる遺物基本表とそれに付随する数値関係の表から構成されている。

写真を管理する表は、遺跡名・被写体名等の基本情報からなるフォトCD表1つから構成されている。

文献関係の表には、実物の文献資料を管理する文献基本表が基本となる。ただし、複数収蔵されている文献も多数あるため、報告書等遺跡に関係する福島県内の文献については重複を除いたものを文献種別表として分離した。

ER設計を元に、PK（プライマリーキー）とFK（フォーリンキー）を設計した。PKについては、遺跡・遺物・写真・文献ともに各資料に1番からの連番号を割り振っている。FKは、ER設計を元に、相手先の表に埋め込む形で設定している。資料管理上のキーとなるFKは、遺跡データベースの報告書に掲載された遺跡ごとの調査単位である調査台帳コードで、遺跡・遺物・写真の各表に設定されている。

(2) コード設計

各表の項目の中で、数値化した方がより効率的な検索が行えるものについては、コード化を実施した。対象となる項目は、複数のデータにまたがって存在し、グルーピング可能なものとなる。

2つ以上の資料にまたがってコード化を進めたものは、時代・遺構・調査機関である。時代については、白河館で取り扱う資料の性格上、重要な情報となっている。

遺跡に関する固有の項目では、水系・地方・市町村名・調査種類をコード化している。主要なコードの詳細については、次章で紹介したい。遺物に関する項目では、遺物の種類をコード化してある。

コード化による利点の1つは、検索を高速化することにある。テキストベースの項目を拾うよりも数値化されたものを検索した方が検索時間が短縮可能となる。もう一つは、検索単位を簡易化することである。データ化する項目によっては、数値化されたコードを検索すれば、数値化しない場合と比較してはるかに簡易な検索文を記述出来る。たとえば、時代においては、縄文時代全体と縄文中期の二通りの検索を想定した場合、文字列検索では、2つの項目を入力する必要があるのに対して、数値化すれば1つの項目入力で両方の要素を表すことが可能となる。たとえば、時代を入力する場合、下記のようなになる。

文字列の場合……………縄文時代、縄文中期

数値コードの場合……………125

更に、入力を規定することによって、対象となる入力項目を限定することが可能となる。これにより、コード化されていない項目については、入力を受け付けず、データに整合性を持たせるのに有効となる。

(3) 画像関係データの設計

データベースとして取り込む画像関係のデータには、遺跡地図、遺物実測図、遺物写真、遺跡・遺構写真がある。遺跡地図と遺物実測図については、画面表示だけでなくデータをダウンロードすることによって印刷にも耐えうる品質であることを目指して、設計を行った。画角は、15cm×15cmの正方形とし、その解像度は画面用が一般的なディスプレイ解像度に合わせた72 d p i、印刷用がインクジェットプリンタでの印刷に耐える200 d p iとした。取り込みはスキャナーで行うことを前提に、ファイル形式は地図が高解像度 J P E G（カラー）、実測図が高解像度 J P E G（グレースケール）とした。遺物写真はD B公開までにデータ入力に間に合う見込みがないため、設計を実施せず、テーブルデータの入力項目に入れるに留めた。

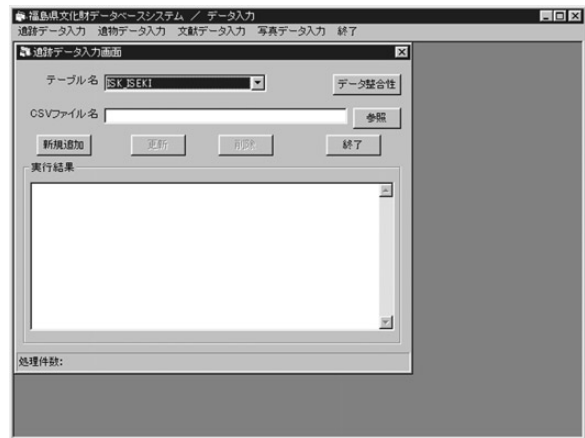
遺跡・遺構写真は、デジタル化の素材にフォトC Dを利用しているため、画面表示用の解像度は、1 / 4 B A S Eとした。データベースに取り込むためにこれを高解像度 J P E Gに加工している。遺跡・遺構写真関係の画像については、高品位の画像を多量にストックするのが物理的に難しいので、印刷用のデータの設計・取り込みは見送った。印刷出力は検索結果を元にC Dディスクから直接行う。

5) 各システムについて

各システムは、2で上げた要件を元に、基本仕様作成と基本画面構成を当方で行い、それを元にした仕様と画面の再構成とプログラム自体の開発を外部に委託する形で製作した。

(1) 入力システム

3の要件の中でのCSVでの入力要件は、遺跡・遺物・写真・文献の各入力システムとしてシステム化されている。遺跡・遺物・写真については、入力・更新・削除の基本操作以外に簡易な検索による出力機能ももっている。写真については、基本的に入力のみとなっている。入出力は、各データの実テーブルが対象で、CSVファイルについては当然項目とデータタイプが一致している必要がある。具体的な画面構成は上図となっており、VBを利用してプログラムが開発されている。



(2) 検索システム

各資料に対応する形でデータ検索をインターネット上で実現可能なシステムとなっている。各データベースは、基本的に検索条件入力画面、検索結果一覧画面、検索結果詳細画面の3段階の画面によって構成されている。

検索条件入力画面については、字句のフリーな入力よりも項目選択による入力が行えるように努めた。インターネット上で検索可能なデータベースには、項目に対してフリーな入力を要求するものが多く見受けられる。しかし、一般利用者の立場に立てば、こうしたデータベースは項目自体の意味やそこに何を入力すべきかについての混乱を招く可能性があり、ひいてはデータベースの利用頻度の低下にもつながると思われる。利用しやすいデータベースを目指す以上、そのような可能性を排除すべきと考え、選択項目を多くした。選択項目のピックアップには、前項のコード化の利点を最大限生かすことができた。

検索結果一覧画面は、検索条件に合致したデータの各項目の中からその要素を代表的に示す項目の一覧表が表示される。表示される順序については、基本項目の五十音順並び替えが原則となっている。また、最大表示件数も入力画面で指定することが可能である。検索結果はこの画面でCSVファイルとして出力できるようにした。収蔵している資料や調査によって得られた遺跡についての情報もまた国民共有の財産であり、一機関・施設が独占することなく広く公開されなければならない。そのために基本的にコード等の管理的な情報を除いた全ての項目の情報についてダウンロード可能とした。ダウンロードすることによって、それが表計算ソフトやデータベースソフトに取り込まれ2次的に利用されることも念頭に置かれている。データベースの著作権の問題は、利用者に著作権法の範囲内で利用してもらうことで対応可能と考える。データ自体が利潤を生み出す種類のものではないので、このような対応で十分と考えた。

検索結果詳細画面は、一覧で表示されなかったデータとそれに付随する画像データがリンクされて同一画面で表示される形となっている（文献データベースを除く）。印刷品質の画像関係（遺跡地図・遺物実測図）のダウンロードもこの画面から可能となる。

(3) 収蔵資料管理システム

データベース化されている遺物・写真資料・文献資料を円滑に管理するために、それらを統一的に管理するシステムとして、収蔵資料管理システムがある。表の構成は、データ基本表の他に貸出・閲覧の対象者や日付の情報からなる表で構成されている。遺物資料の画面は右図に示す通りである。

このシステムを構築する上で特に注意した点は、収蔵場所の情報についても確認可能とすることであった。遺物・写真は棚単位での管理が可能な収蔵状況となっており、遺物や写真の基本テーブルに収蔵場所を埋め込む形で対応可能とした。

(4) データ管理システム

データベースを運用する上で、その運用状況を管理するシステムである。管理する情報は、データを入力した件数、データを更新した件数、データが検索・ダウンロードされた件数の4種類である。

データ入力件数と更新件数は、テーブルごとの各月単位の数が集計される。データ検索件数については、各データ検索に利用されるテーブルに投げかけられた検索とダウンロードされた件数を1ヶ月単位で集計する形とな

っており、白河館内に設置してあるPCからの検索とそれ以外の外部からの検索を分離することも可能である。(データ表示画面は上図参照) また、管理を行う上では、これらの数値を報告・広報する必要があるため、単に表示されるだけでなく、6ヶ月単位でCSVファイルとしての出力する機能も盛り込まれている。

(5) データ出力システム

データベース運用フェイズに入り、データの調整を実施する段階に入ると、データ入力システムだけでは詳細な調整を行いきれないことが明らかになった。そこで、平成13年度に新たにデータ出力システムを加えることとした。

データベースの調整には、生のSQL文を利用する方法が最も自由度が高い方法である。しかし、大量のデータの調整を行うためには、その都度PL/SQLのプログラムを作成する必要があり、一般的なユーザーが管理を行うには敷居が高いし、また手間がかかる。幸い、データ入力システムが既に開発されているため、それを利用した方がより効率的な管理が可能となる。

システムは、生のSQL文を入力してそれに対応したデータがCSVファイルとして出力さ

福島県文化財データベースシステム / 収蔵資料管理 Ver1.02

遺物資料 写真資料 文献資料

遺物貸出・閲覧 予約画面

報告書名	掲載回No	掲載回枝No	掲載ページ

リスト追加

予約基本情報

貸出・閲覧者所属機関

貸出・閲覧者代表者名

TEL

住所

☒ 貸出 ☐ 閲覧

貸出期間 年 月 日 ~ 年 月 日

閲覧希望日 年 月 日 ~ 年 月 日

受付者氏名

予約 閉じる

福島県文化財データベースシステム / データ管理

システム状況管理 データ整合性

検索状況管理(検索システム利用状況)

		内 部	外 部
遺 跡	SELECT	4369	2852
	DOWNLOAD	216	0
遺 物	SELECT	1270	1400
	DOWNLOAD	82	0
文 献	SELECT	529	403
	DOWNLOAD	23	0
写 真	SELECT	2368	1541

表示 キャンセル

6ヶ月分のデータ

出力

2002 年 03 月以前

時期指定: 2001 年 07 月 ~ 2002 年 03 月

れる形となっている。(画面見本は右図参照)

6) ハードウェア環境とネットワーク環境
5のシステムが運用されるためには、ハードウェア環境やネットワーク環境の整備が必要であり、以下のような整備がされている。システム構築・設計については、当システムの保守管理担当業者のシステムエンジニアによるところが大きい。

(1) データベース本体

データベースを格納するサーバーにはUNIX系のSunEnterprise450(実機は東芝OEM製品)を利用している。総データ予想量が20万件を超えることが予想されたためとネット公開を前提とした安定運用が望まれていたため、Windows系のPCサーバーではなく、UNIX系のサーバーが選択されている。搭載されているHD容量は初期段階で約40GBとなっている。(平成13年3月に更に70GBを増設)

データベースエンジンには、Oracle 8 WorkGroupServerを利用している。ワークステーションに対応するソフトとしたのは、Infomixやsaybase等他のソフトもあったが、市場でのシェアを勘案してOracleを選択した。DBサーバーの導入は平成11年度とシステム構築に1年先行させ、画像関係データの蓄積に利用した。

(2) ネットワーク環境

Webサーバーについては、平成13年度に構築した。白河館のHPの他、当事業団の他部署のHPも管理し、mailサーバーとしても利用している。Webサーバーは、DBサーバーとの相性と安定性から同じくUNIX系のSunEnterprise250(実機は東芝OEM製品)を利用している。

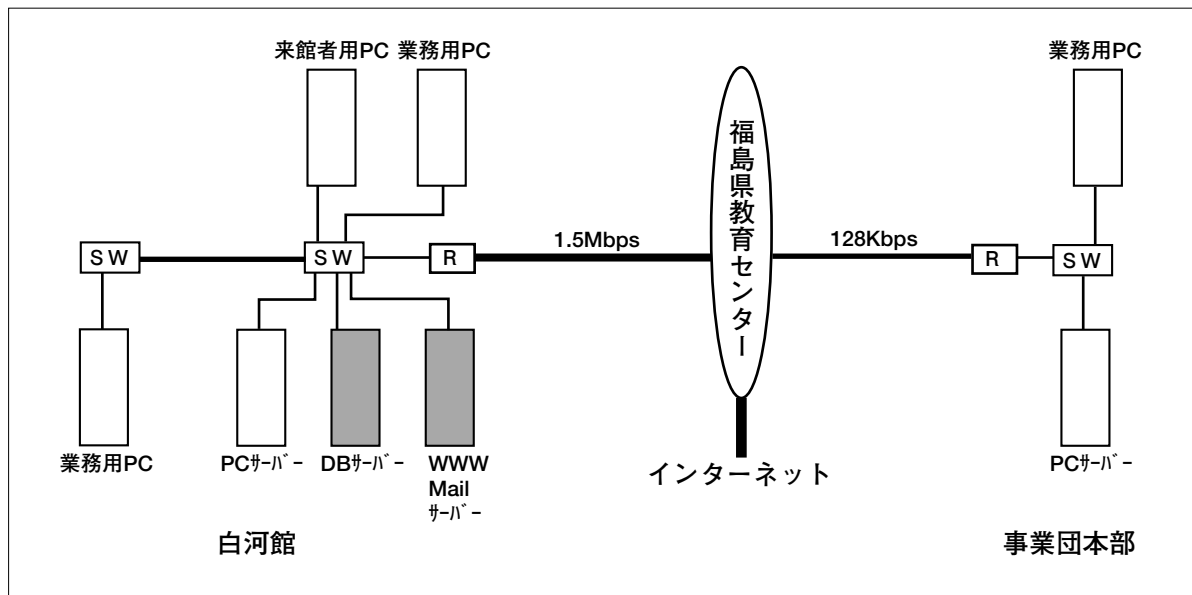
白河館内のLANは、これらのサーバーにNTサーバーを加えたサーバー群とPCクライアント群、ネットワークプリンタ群によって構成されている。検索システムを除くシステムはLAN上のサーバー/クライアント間で動作する。

Web上の出口は、福島県教育委員会が管理運営している「ふくしま教育総合ネットワーク」(以下FKS)を利用している。すなわち、一般のインターネット回線を利用したVPNによってFKSのサーバー群が管理されている福島市の県教育センターとルータ間で接続し、TCP/IPによって白河-福島間でWANを構成している。外からのアクセスは、まず教育センターのサーバーにまず入り、そこから白河のWebサーバーに接続される形態となっている。基本的なセキュリティーもFKS側のファイアーウォールを利用している。

さらに事業団本部とも教育センターを介してWANを構成しており、Windowsレベルのネットワークも構築されている。WAN上では、データベースシステムのサーバー/クライアントシステムも動作可能で、福島からもデータベースの運用状況を確認することが出来る。

ネットワークの概要図は次ページの図を参照されたい。





2 遺跡データベースについて

1) はじめに

福島県内には、1万3千カ所以上の遺跡があり、平成6年福島県教委発行の「福島県遺跡地図」にその場所についても公表されている。しかし、「遺跡地図」は発行部数も限られており、一般の県民が遺跡の情報に触れられるのは新聞等のメディアでの紹介や各地で開催されている現地説明会や展示会等に限定される。

このような中、まほろんは遺跡の情報を含めた文化財情報を恒常的に提供する役割を担っている。遺跡データベースは、このような中、福島県内にある遺跡の基本的なデータを網羅し、さらに調査情報と合わせて、インターネットを通じて広く県民に公開することを第1の目的としている。これらの目的を達成するために、遺跡の情報である表を構成する項目については、かなり細かい要素まで網羅出来るように努めた。

また、遺跡の情報検索のみに利用するだけでなく、さらに一歩進んで、データベースを利用することにより、直接、遺跡の現地に立てることも想定した。具体的には遺跡地図画像の提供で、画面で確認が出来るだけでなく、それをダウンロードし印刷することが可能なシステムとなっている。

このような機能の他に、地方公共団体や財団の文化財担当者や考古学研究者が、検索結果を自分のPCに取り込んで利用出来るように、CSVのダウンロード機能も持たせてある。これによって、知ろうとする遺跡のデータを副次的に業務や研究に利用することが可能となる。

2) 入力元のデータと入力方法

表の入力には、平成6年県教委発行の「福島県遺跡地図」と県教委文化課保管の遺跡台帳および県内発行の調査報告書を利用している。県教委発行の遺跡地図の巻末の一覧表には、遺跡

の基本データが掲載されており、そこから基本項目は入力している。基本項目にないもの、たとえば地形や水系、標高、緯度・経度などのデータは、国土地理院発行の1/25,000地図を読みとる形でデータを起こしている。標高・緯度・経度のデータは、遺跡地図に記載されている遺跡の中心を計測しており、範囲の大きな遺跡については、場所により若干齟齬が出るかも知れない。また、所在地のよみがなについては、財団法人国土地理協会発行の「JIS都道府市区町村コードによる全国町・字ファイル福島県」を参考とした。調査台帳や遺構数のデータは、調査報告書記載の内容から直接データを起こしている。

画像データは国土地理院発行の1/25,000の地図を利用している。複製許可申請は、平成11年度に提出し、その年に複製許可が下りており、地図画像の全てに許可番号を標記している。地図画像は、スキャナーで1/25,000の地図を取り込み、それに「遺跡地図」の場所を入れ込む形で入力を行っている。遺跡地図のバックの画像には、デジタル地図を利用する方法もあったが、著作権やクオリティーの問題から紙の地図を直接利用している。

3) 表の構成

遺跡データベースに関連する表は、遺跡基本表・調査台帳表・発行文献表・遺構数表・遺構集計表の5つの表から構成されている（356ページ以下の表を参照）。

遺跡基本表は、福島県内に所在する遺跡1件1件に対する基本データが入力される表で、入力項目は67項目となっている。入力項目は、遺跡名など遺跡固有データ、所在地など位置データ、時代・種別など性格データ、要保存面積など管理データ、地形・水系など地形関係データ、概要説明などの詳細情報データ、文献コードなどリンク系データの7項目に大別される。遺跡基本表の項目選定にあたっては、独立行政法人奈良文化財研究所で公開されている不動産文化財データベースで取り扱われている項目をある程度カバー出来るように努めた。また、検索時の利便性を考え、水系コードや地方コード等独自のコードも項目に加えている。

調査台帳表は、福島県内で発掘調査と試掘調査が実施された遺跡で、報告書の1報告について1件とした。したがって、調査が実施されても報告書が刊行されていない遺跡は入力の対象外となる。また、複数の遺跡が収録されている報告書では、収録遺跡ごとの件数となっている。入力項目は一部遺跡基本表とダブる形となっているが、これに加えて調査年や面積・遺物等このテーブルに固有の項目がある。特に福島県教育委員会調査分については、収蔵資料と密接な関係を持っており、それを探するためのキーテーブルとなっている。

発行文献表は、遺跡に関する報告書等の文献のデータが入力される表で、基本的なデータは文献データベースの文献種別表とリンクしている。当初、遺跡基本表に含める予定であったが、今後関係する文献の数がかなり増加することが見込まれるので、別表として独立させた。ただ、文献名等の基本データ入力項目は、検索の利便性を考え文献種別表と重複させている。

遺構数表は、報告書に掲載されている遺構1つ1つについての遺構の種類と時代のデータが入力される表である。調査台帳表の中に遺構概要として簡略化して取り込むことも可能であったが、時代・種別からその数を検索することを可能とするため、別表とした。

遺構集計表は、遺構数表を元に1調査件あたりの時期と遺構を集計したものである。当地域における一般的な遺構を時代と組み合わせて各項目としている。この表に関しては、データ入力システムのプログラムによって、自動生成・集計されるようになっている。

4) 画像データの構成

画像データは画面表示用と印刷用の2種類の解像度のものがある。画面表示用が15×15cmの72 d p i、印刷用が15×15cmの200 d p iである。遺跡の位置は「福島県遺跡地図」を元に入力している。遺跡単独の範囲では、周辺遺跡との関係が不明であるため、該当遺跡範囲を赤で、周辺の遺跡範囲を水色で表示してある。入力した画像データは高解像度J P E G画像としてサーバー内の別フォルダに保存している。遺跡表の地図画像を示す項目には、それぞれの画像名とそれが入っているフォルダ名が入力されている。遺跡データベースについては、本来G I Sとの相性が良く、遺跡範囲のデータとバックの地図画像は分離した方が、有効に管理や公開が行える。しかし、構築段階で有効なG I Sシステムが見つからなかったのと、背景画像の著作権の問題から今回の導入は見送った。

5) コード化した分類項目

(1) 時代

時代については、別紙「時代コード表」の通り3ケタの数字としてコード化した。平成12年の前期旧石器ねつ造問題発覚以前に作成したもので、前期旧石器の時代区分もある。それ以降は、時代と時期・世紀を組み合わせて作成している。考古資料の年代については、その特定が難しいものも多く含まれているが、それについては時期の上限と下限の入力項目を設定することで対応することとした。

(2) 遺構種別

遺構の種別については、別紙「遺構コード表」の通り4ケタの数字としてコード化した。遺構の機能的な性格と形状については明確に分離しておらず、それらを併記する形態となっている。発掘調査で検出される遺構は、遺跡の全体像や周辺の遺構の状況から性格・機能を特定できる場合もあるし、形状と時期のみの情報しか取り出せない場合もある。したがって、形状だけの分類や機能的性格だけの分類では、データへの現実的な対応は不可能で、併記する形がベターと考え、そのようにした。

(3) 水系

福島県内の河川について、1/25,000の地図を元に4次河川まで対応可能な階層として、独自に8ケタのコード化を行った。系列河川名とコードの双方を入力しており、直接、河川名からの検索と水系からの検索の双方が実施できる。

検索例

入力データ：摺上川、阿武隈川、10110000、10000000

河川名から検索：SELECT * FROM IBT_ISEKI WHERE SUIKEI1 = '摺上川'

水系から検索：SELECT * FROM IBT_ISEKI WHERE SUIKEICODE BETWEEN 10000000
AND 19999999

6) 検索のインターフェイス

検索画面の流れは以下となっている。基本的に5つの階層からなり、遺跡からその調査内容まで表示可能としている。

→ 4 '文献一覧

1 検索入口→ 2 検索結果一覧→ 3 詳細情報表示→ 4 調査歴一覧→ 5 調査歴詳細

リンク→遺物データベース

→写真データベース

検索入口画面については、遺跡名称・場所・時代・種別・調査歴・地形・水系の6つの項目から検索可能な画面とした。検索可能な項目はこれ以外にもあるが、遺跡を理解する上でわかりやすい項目に絞った結果、上記6項目となった。また、前章の理由からフリーワード検索を避けて、選択タイプを多くするようにつとめた。

検索結果一覧画面は、遺跡名・市町村名・調査歴の有無の3つの基本項目のみの表示とした。この画面から検索結果詳細情報のCSVファイルをダウンロードすることが出来る。

詳細情報表示画面は、位置関係の情報と地図をリンクさせて表示する画面で、関連文献と調査歴への入り口の画面でもある。遺跡の直感的理解を想定して項目や画像の選定にあたっている。遺跡地図画像のダウンロードもこの画面から可能となっている。

調査歴一覧画面の項目には、調査機関・調査年・面積・文献と遺構数表を元にした主要遺構が表示される。この画面では、遺跡の調査成果の概要を知ることが可能であることを目指しており、一覧表に示されたデータの詳細をCSVファイルでダウンロードすることも可能である。

調査歴詳細画面は、前の一覧に表示された情報の他に遺物・時代、時代と関連づけられた遺構数が表示される。遺跡データベースの中では、最も詳しい調査内容をのせた画面で、さらに詳細に調べたい場合は、この画面を手がかりに報告書の現物にあたることになる。また、福島県教委調査の遺跡については、調査台帳表の調査台帳コードをキーに遺物データベースと写真データベースにリンクする形となり、それらの情報を見ることも可能である。

→URL: <http://search.mahoron.fks.ed.jp/cgi-bin/bunkazai?fn=iseki&clear=true>

7 他のデータベースとの関係

遺跡に関連するデータベースとしては、既にネット上公開されている全国遺跡データベース(独立行政法人奈良文化財研究所 URL: <http://acd.nabunken.go.jp/Open/iseki/keii.html>)がある。遺跡データベースの項目は、全国遺跡データベースの入力項目のほとんどが網羅されている。語句やコード等に相違がある部分に関しては、データを変換することによって内容を合わせることが可能である。

全国遺跡データベースは、全国的な遺跡の基本的な管理簿を目指したもので、調査の内容等詳細については、各都道府県の対応にまかされている。それに対応するのが調査台帳表や遺構数表であり、ある程度の遺跡の内容は理解可能と思われる。

入力データとしては、報告書に添付されるようになった報告書抄録がある。報告書抄録は報告書毎につけられた文献そのもののデータと、遺跡の調査内容データが組み合わされて記載された表である。遺跡データベースに関連する部分は調査内容データの方で、こちらの項目はほぼ調査台帳表で網羅されている。ただ、遺構内容については、別に遺構数テーブルを設定しており、抄録より更に詳しいデータを検索することも可能である。文献そのもののデータは、文献データベースで作成した表で網羅されている。

8) 今後の課題

遺跡の情報は、分布調査によって新たに発見されたり、開発に伴って消滅したり、日々変更される情報である。現在のシステムでは、入力元地図に平成6年発行の地図を利用し、報告書も刊行後に入力、登録の流れとなっており、最新の状況には対応出来ない。

白河館のデータベースの内、遺跡データベースは特に情報提供の側面が強く、遺跡の管理的なデータについては、教育庁文化課で本年度にGISシステムを利用して本格的に構築しているところである。

基本的なデータについては、ある程度の相互乗り入れを可能とすることによって、新しい遺跡情報の情報管理－情報提供が連携可能となると思われる。また、同時に市町村からも最新の情報が入れられる仕組み作りも必要と思われる。

GISのシステムは、大変魅力的なシステムであるが、本格的な導入を考えるとGISサーバーを新規に構築する必要がある。そのためには、現在利用している地図画像データとの関係も整理する必要があると思われる。

データベースファイル規定書

テーブル名	発行文献
システムテーブル名	ISK_HAKKoubUNKEN

識別キー	遺跡コード
------	-------

No.	列の内容	システム列名	データタイプ	制約	備考
1	遺跡コード	ISEKICODE	NUMBER	NOT NULL PK FK	
2	文献名	BUNKENMEI	VARCHAR2(80)	NOT NULL PK	
3	文献コード2	BUNKENCODE2	NUMBER	FK	
4	遺跡名	ISEKIMEI	VARCHAR2(20)	NOT NULL	
5	発行機関名	HAKKOUKIKANMEI	VARCHAR2(40)		
6	発行年	HAKKOUNEN	DATE		YYYYMMDD
7					
8					
9					

データベースファイル規定書

テーブル名	遺跡
システムテーブル名	ISK_ISEKI

識別キー	遺跡コード
------	-------

No.	列の内容	システム列名	データタイプ	制約	備考
1	遺跡コード	ISEKICODE	NUMBER	NOTNULLPK	
2	遺跡コード (台帳用)	ISEKICODE2	NUMBER		県の台帳No.
3	遺跡名	ISEKIMEI	VARCHAR2(30)	NOTNULL	
4	遺跡名よみがな	ISEKIMEIK	VARCHAR2(60)		
5	市町村名 1	SHICYOUSONMEI1	VARCHAR2(10)	NOTNULL	
6	町名・大字小字 1	CYOUMEI1	VARCHAR2(40)		
7	市町村名 2	SHICYOUSONMEI2	VARCHAR2(10)		
8	町名・大字小字 2	CYOUMEI2	VARCHAR2(40)		
9	市町村名 3	SHICYOUSONMEI3	VARCHAR2(10)		
10	町名・大字小字 3	CYOUMEI3	VARCHAR2(40)		
11	市町村名 4	SHICYOUSONMEI4	VARCHAR2(10)		
12	町名・大字小字 4	CYOUMEI4	VARCHAR2(40)		
13	遺跡推定面積	SUITEIMENSEKI	NUMBER		
14	要保存面積	HOZONMENSEKI	NUMBER		
15	即本調査面積	CYOUSAMENSEKI	NUMBER		
16	発掘調査回数	HAKUTSUKAISUU	NUMBER		
17	試掘調査回数	SHIKUTUKAISUU	NUMBER		
18	文化財指定の有無	BUNKAZAISHITEI	NUMBER		1国、2県、3市町村
19	1/25000地図名称 1	CHIZUMEI1	VARCHAR2(20)		
20	1/25000地図名称 2	CHIZUMEI2	VARCHAR2(20)		
21	1/25000地図名称 3	CHIZUMEI3	VARCHAR2(20)		
22	1/25000地図名称 4	CHIZUMEI4	VARCHAR2(20)		
23	緯度	IDO	VARCHAR2(20)		
24	経度	KEIDO	VARCHAR2(20)		
25	国土 X 座標	XZAHYOU	NUMBER		
26	国土 Y 座標	YZAHYOU	NUMBER		
27	標高	HYOUKOU	NUMBER		
28	遺跡種別 1	ISEKISYUBETSU1	VARCHAR2(20)		
29	遺跡種別 2	ISEKISYUBETSU2	VARCHAR2(20)		
30	遺跡種別 3	ISEKISYUBETSU3	VARCHAR2(20)		
31	遺跡種別 4	ISEKISYUBETSU4	VARCHAR2(20)		
32	主な時代 1	JIDAI1	VARCHAR2(20)		
33	主な時代 2	JIDAI2	VARCHAR2(20)		
34	主な時代 3	JIDAI3	VARCHAR2(20)		
35	主な時代 4	JIDAI4	VARCHAR2(20)		
36	主な時代 5	JIDAI5	VARCHAR2(20)		

データベースファイル規定書

テーブル名	遺跡
システムテーブル名	ISK_ISEKI

識別キー	遺跡コード
------	-------

No.	列の内容	システム列名	データタイプ	制約	備考
37	遺跡時代コード 1	JIDAICODE1	NUMBER		
38	遺跡時代コード 2	JIDAICODE2	NUMBER		
39	遺跡時代コード 3	JIDAICODE3	NUMBER		
40	遺跡時代コード 4	JIDAICODE4	NUMBER		
41	遺跡時代コード 5	JIDAICODE5	NUMBER		
42	系列河川名 1	KASENMEI1	VARCHAR2(20)		
43	系列河川名 2	KASENMEI2	VARCHAR2(20)		
44	水系コード 1	SUIKEICODE1	NUMBER		
45	水系コード 2	SUIKEICODE2	NUMBER		
46	山地	YAMA	NUMBER		該当が 1
47	丘陵	OKA	NUMBER		該当が 1
48	台地・河岸段丘	DAICHI	NUMBER		該当が 1
49	扇状地	OHGI	NUMBER		該当が 1
50	低地平野	HEIYA	NUMBER		該当が 1
51	水底	SUITEI	NUMBER		該当が 1
52	島興	SHIMA	NUMBER		該当が 1
53	市街地・集落	SHIGAICHI	NUMBER		該当が 1
54	道路	DOURO	NUMBER		該当が 1
55	基地	KICHI	NUMBER		該当が 1
56	耕作地	KOUSAKUCHI	NUMBER		該当が 1
57	山林・原野	SANRIN	NUMBER		該当が 1
58	その他	SONOTA	NUMBER		該当が 1
59	遺跡概要	ISEKIGAIYOU	VARCHAR2(200)		
60	遺構概要	IKOUGAIYOU	VARCHAR2(200)		
61	遺物概要	IBUTSUGAIYOU	VARCHAR2(200)		
62	開発概要	KAIHATSUGAIYOU	VARCHAR2(200)		
63	保存状況	HOZONJYOUKYOU	VARCHAR2(200)		
64	画面用地図コード	GAMENCHIZUCODE	VARCHAR2(40)		ファイル名・場所
65	印刷用地図コード	INSATSUCHIZUCODE	VARCHAR2(40)		ファイル名・場所
66	詳細地図コード	SYOUSAICHIZUCODE	NUMBER		
67	地方コード	CHIHOUCODE	NUMBER		1 から 7 の番号
68					
69					
70					
71					
72					

データベースファイル規定書

テーブル名	調査台帳	識別キー	調査台帳コード
システムテーブル名	ISK_CYOUSADAICYOU		

No.	列の内容	システム列名	データタイプ	制約	備考
1	調査台帳コード	DAICYOUCODE	NUMBER	NOT NULL PK	
2	遺跡コード	ISEKICODE	NUMBER	NOT NULL FK	
3	ふりがな	KANA	VARCHAR2(60)		
4	遺跡名	ISEKIMEI	VARCHAR2(30)	NOT NULL	
5	調査種類コード	CYOUSASYURUICODE	NUMBER		1 発掘 2 試掘
6	本調査面積	HONCYOUSAMENSEKI	NUMBER		単位㎡
7	予備・試掘調査面積	SHIKUTSUMENSEKI	NUMBER		単位㎡
8	調査年 1	CYOUSANEN1	NUMBER		YYYY
9	調査年 2	CYOUSANEN2	NUMBER		YYYY
10	調査年 3	CYOUSANEN3	NUMBER		YYYY
11	調査年 4	CYOUSANEN4	NUMBER		YYYY
12	所在地 1	SYOZAICHI1	VARCHAR2(40)		
13	所在地 2	SYOZAICHI2	VARCHAR2(40)		
14	所在地 3	SYOZAICHI3	VARCHAR2(40)		
15	所在地 4	SYOZAICHI4	VARCHAR2(40)		
16	市町村コード 1	SHICYOUSONCODE1	NUMBER		自治省のコード
17	市町村コード 2	SHICYOUSONCODE2	NUMBER		自治省のコード
18	市町村コード 3	SHICYOUSONCODE3	NUMBER		自治省のコード
19	市町村コード 4	SHICYOUSONCODE4	NUMBER		自治省のコード
20	市町村名 1	SHICYOUSONMEI1	VARCHAR2(40)		
21	市町村名 2	SHICYOUSONMEI2	VARCHAR2(40)		
22	市町村名 3	SHICYOUSONMEI3	VARCHAR2(40)		
23	市町村名 4	SHICYOUSONMEI4	VARCHAR2(40)		
24	調査機関	CYOUSAKIKAN	VARCHAR2(40)		
25	調査事業	CYOUSAJIGYOU	VARCHAR2(40)		
26	事業コード	JIGYOUCODE	NUMBER		
27	主な時代コード 1	JIDAICODE1	NUMBER		
28	主な時代コード 2	JIDAICODE2	NUMBER		
29	主な時代コード 3	JIDAICODE3	NUMBER		
30	主な時代コード 4	JIDAICODE4	NUMBER		
31	主な時代コード 5	JIDAICODE5	NUMBER		
32	主な時代 1	JIDAI1	VARCHAR2(20)		
33	主な時代 2	JIDAI2	VARCHAR2(20)		
34	主な時代 3	JIDAI3	VARCHAR2(20)		
35	主な時代 4	JIDAI4	VARCHAR2(20)		
36	主な時代 5	JIDAI5	VARCHAR2(20)		

データベースファイル規定書

テーブル名	調査台帳	識別キー	調査台帳コード
システムテーブル名	ISK_CYOUSADAICYOU		

No.	列の内容	システム列名	データタイプ	制約	備考
37	調査原因	CYOUSAGENIN	VARCHAR2(20)		
38	遺跡の種別 1	ISEKISYUBETU1	VARCHAR2(20)		
39	遺跡の種別 2	ISEKISYUBETU2	VARCHAR2(20)		
40	遺跡の種別 3	ISEKISYUBETU3	VARCHAR2(20)		
41	遺跡の種別 4	ISEKISYUBETU4	VARCHAR2(20)		
42	主な遺物 1	IBUTSU1	VARCHAR2(20)		
43	主な遺物 2	IBUTSU2	VARCHAR2(20)		
44	主な遺物 3	IBUTSU3	VARCHAR2(20)		
45	主な遺物 4	IBUTSU4	VARCHAR2(20)		
46	特記事項	TOKKIJIKOU	VARCHAR2(200)		
47	文献コード 2	BUNKENCODE2	NUMBER	NOT NULL FK	
48	報告書名	HOUKOKUSYOMEI	VARCHAR2(80)		
49	調査機関コード	CYOUSAKIKANCODE	NUMBER		
50					
51					
52					

データベースファイル規定書

テーブル名	遺構数	識別キー	調査台帳コード
システムテーブル名	ISK_IKOUSUU		

No.	列の内容	システム列名	データタイプ	制約	備考
1	調査台帳コード	DAICYOUCODE	NUMBER	NOT NULL PK FK	
2	遺構略号・名称	IKOURYAKUGOU	VARCHAR2(20)	NOT NULL PK	
3	遺跡名	ISEKIMEI	VARCHAR2(20)		
4	遺構コード	IKOUCODE	NUMBER		
5	時代コード（上限）	JIDAICODEUE	NUMBER		
6	時代コード（下限）	JIDAICODESHITA	NUMBER		
7					
8					
9					
10					

データベースファイル規定書

テーブル名	遺構集計
システムテーブル名	ISK_IKOUSYUUKUKEI

識別キー	調査台帳コード
------	---------

No.	列の内容	システム列名	データタイプ	制約	備考
1	調査台帳コード	DAICYOUCODE	NUMBER	NOT NULL PK FK	
2	旧石器遺構	KYUUSEKKIKOU	NUMBER		
3	縄文竪穴住居跡	JYUUMONTATEANA	NUMBER		
4	弥生竪穴住居跡	YAYOITATEANA	NUMBER		
5	古墳竪穴住居跡	KOFUNTETAANA	NUMBER		
6	奈良平安竪穴住居跡	NARAHEIANTATEANA	NUMBER		
7	縄文・弥生建物跡	JYUUMONTATEMONO	NUMBER		
8	古墳建物跡	KOFUNTATEMONO	NUMBER		
9	奈良平安建物跡	NARAHEIANTATEMONO	NUMBER		
10	中世建物跡	CYUUSEITATEMONO	NUMBER		
11	近世建物跡	KINSETATEMONO	NUMBER		
12	高塚古墳	TAKATSUKAKOFUN	NUMBER		
13	横穴墓	YOKOANA	NUMBER		
14	窯跡（土器焼成）	KAMAATO	NUMBER		
15	水田跡	SUIDENATO	NUMBER		
16	土坑	DOKOU	NUMBER		
17	溝跡	MIZOATO	NUMBER		
18	その他の遺構	SONOTA	NUMBER		
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					

時代コード表

大項目	中 項 目	小 項 目
原始（１）	前期旧石器時代（11） 後期旧石器時代（12） 縄文時代（13） 弥生時代（14） 不明（10）	前期旧石器（111） 前葉（121） 中葉（122） 後葉（123） 不明（120） 草創期（131） 早期（132） 前期（133） 中期（134） 後期（135） 晩期（136） 不明（130） 前期（141） 中期（142） 後期（143） 不明（140） 不明（100）
古代（２）	古墳時代（21） 飛鳥時代（22） 奈良時代（23） 平安時代（24） 不明（20）	前期（211） 中期（212） 後期（213） 不明（210） 6世紀（221） 7世紀（222） 不明（220） 8世紀（231） 8世紀（241） 9世紀（242） 10世紀（243） 11世紀（244） 12世紀（245） 不明（240） 不明（200）
中世（３）	鎌倉時代（31） 室町時代（32） 安土・桃山時代（33） 不明（30）	12世紀（311） 13世紀（312） 14世紀（313） 不明（310） 14世紀（321） 15世紀（322） 16世紀（323） 不明（320） 16世紀（331） 17世紀（332） 不明（330） 不明（300）
近世（４）	江戸時代（41）	17世紀（411） 18世紀（412） 19世紀（413） 不明（410）
近代（５）	明治時代（51） 大正時代（52） 不明（50）	19世紀（511） 20世紀（512） 不明（510） 20世紀（521） 不明（500）
現代（６）	昭和時代（61）	20世紀（611）
不明（７）	不明（70）	不明（700）

遺構コード1

大 項 目	中 項 目	小 項 目	コード	備 考
集落・居館・官衙・ 城館・邸宅（1）	建物（11）	竪穴住居	1101	石器・木器・玉製作工房
		掘立柱建物	1102	
		礎石建物	1103	
		方形竪穴	1104	
		平地住居	1105	
		敷石住居	1106	
		門	1107	
		その他	1100	
	その他の施設 （12）	柱列・柵列	1201	
		水路・堀・溝	1202	
		石塁・土塁	1203	
		築地塀	1204	
		井戸	1205	
		水場	1206	
		地下式坑	1207	
		橋脚	1208	
		張出	1209	
		曲輪・平場	1210	
		虎口	1211	
		土橋	1212	
		竪堀	1213	
		石垣	1214	
		園池	1215	
		その他	1200	
	その他（13）	貝層	1301	
		捨て場	1302	
		その他	1300	
生産（2）	農業・栽培 （21）	水田	2101	
		畦畔	2102	
		稲株跡	2103	
		水路・堀・溝	2104	
		堰	2105	
		水口	2106	
		畑	2107	
		小溝状遺構	2108	
		条里制遺構	2109	
		その他	2100	
	牧（22）	ひづめ跡	2201	
		柵状遺構	2202	
		石塁・土塁	2203	
		石垣	2204	
		その他	2200	
	製塩（23）	製塩遺構	2301	
		塩田	2302	
		浜溝・大溝	2303	
		釜屋	2304	
		居出場	2305	
		沼井	2306	
		鹹水槽	2307	
		その他	2300	
	冶金関連（24）	精錬炉	2401	製鉄炉
		精錬鍛冶炉	2402	
		鍛造炉	2404	
		踏みふいご	2405	
		鍛冶工房	2406	

遺構コード2

大 項 目	中 項 目	小 項 目	コード	備 考
生産（2）	冶金関連（24）	廃滓場	2407	
		その他	2400	
	窯業（25）	土師器窯	2501	
		土師器灰原	2502	
		須恵器窯	2503	
		須恵器灰原	2504	
		瓦窯	2505	
		瓦窯灰原	2506	
		埴輪窯	2507	
		埴輪窯灰原	2508	
		陶磁器窯	2509	
		陶磁器窯灰原	2510	
		粘土採掘坑	2511	
		その他	2500	
	炭焼（26）	木炭窯	2601	
		木炭焼成土坑	2602	
		その他	2600	
	その他（27）	石器製作場	2701	
		木器製作場	2702	
		玉製作場	2703	
		その他	2700	
交通（3）	通路（31）	道路	3101	
		側溝・水路	3102	
		橋脚跡	3103	
		その他	3100	
	その他（32）	その他	3200	
墓（4）	墳丘等（41）	前方後円墳	4101	木棺形状など埋葬施設備考 方形など形状備考
		帆立貝形前方後円墳	4102	
		前方後円墳	4103	
		方墳	4104	
		円墳	4105	
		上円下方墳	4106	
		八角形墳	4107	
		周溝墓	4108	
		周溝状遺構	4109	
		その他	4100	
	横穴墓（墓）	横穴墓	4201	
	墓（43）	土坑墓	4301	抉り込み土坑など特徴備考 再葬墓 掘り形形状備考 納骨ピット等備考
		木棺墓	4302	
		石棺墓	4303	
		土器棺墓	4304	
		礫槨墓	4305	
		粘土槨墓	4306	
		地下式墓坑	4307	
		円筒埴輪棺	4308	
		集石墓	4309	
		塚墓	4310	
		火葬墓	4311	
		火葬遺構	4312	
		その他	4300	
	その他（44）	供養塔	4401	庚申塔等 五輪塔等
		石塔	4402	
		板碑	4403	
		鉄貫柵	4404	

遺構コード3

大 項 目	中 項 目	小 項 目	コード	備 考
墓（４）	その他（４４）	方形区割	4405	
		廟所	4406	
		その他	4400	
洞穴（５）	洞穴（５１）	洞穴	5101	
		岩陰	5102	
		その他	5100	
祭祀・信仰（６）	塚（６１）	経塚	6101	貝殻経等備考
		十三塚	6102	
		一里塚	6103	
		地境塚	6104	
		その他	6100	
	寺院（６２）	築地塀	6201	
		水路・堀・溝	6202	
		瓦だめ	6203	
		建物跡	6204	
		その他	6200	
	神社（６３）	鳥居	6301	社殿等
		建物跡	6302	
		その他	6300	
	その他（６４）	祭祀遺構	6401	列石
		キリシタン遺構	6402	
		配石・集石遺構	6403	
		その他	6400	
その他	その他（７１）	土坑	7101	野外炉・焼土遺構 集石集中地点に限定 性格不明な土器群・石器群 報告書記載遺構を採用
		貯蔵穴	7102	
		盛土遺構	7103	
		柱列	7104	
		ピット	7105	
		デポ	7106	
		落とし穴	7107	
		炉穴	7108	
		レキ群	7109	
		炭化物集中地点	7110	
		足跡	7111	
		遺物集中地点	7112	
		遺物包含層	7113	
		性格不明遺構	7114	
		自然流路	7115	
		その他	7100	

福島県文化財センター白河館

研究紀要 2001

平成 14 年 3 月 31 日発行

編集 財団法人福島県文化振興事業団
福島県文化財センター白河館
〒 961-0835 白河市白坂字一里段 86
<http://www.mahoron.fks.ed.jp/>
発行 福島県教育委員会
〒 960-8670 福島市杉妻町 2 - 16
印刷 株式会社山川印刷所
表紙デザイン：久家三夫